

平成 1 6 年度

**独立行政法人国立美術館
国立西洋美術館**

実績報告書

目 次

| | |
|---|----|
| 国立西洋美術館の概要 | 3 |
| 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 | 4 |
| 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 | 7 |
| 1. 収集保管 | 7 |
| (1) 美術作品の収集（購入・寄贈・寄託）の状況 | 7 |
| (2) 保管の状況 | 9 |
| (3) 修理の状況 | 11 |
| 2. 公衆への観覧 | 12 |
| (1) 展覧会の状況 | 12 |
| 「常設展」 | 14 |
| 「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」（常設展版画作品展） | 16 |
| 「オランダ・マニエリスム版画展」（常設展版画作品展） | 17 |
| 「マックス・クリンガー版画展」（常設展版画作品展） | 18 |
| 「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」（子どもから楽しめる美術展） | 19 |
| 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」（共催展） | 21 |
| 「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」（自主企画展） | 27 |
| 「マティス展」（共催展） | 31 |
| 「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」（共催展） | 38 |
| (2) 貸与・特別観覧の状況 | 41 |
| 3. 調査研究 | 42 |
| 4. 教育普及 | 44 |
| (1) - 1 資料の収集及び公開（閲覧）の状況 | 47 |
| (1) - 2 広報活動の状況 | 49 |
| (1) - 3 デジタル化の状況 | 52 |
| (2) - 1 児童生徒を対象とした事業 | 53 |
| (2) - 2 講演会等の事業 | 59 |
| (3) - 1 研修の取組 | 64 |
| (3) - 2 大学等との連携 | 66 |
| (3) - 3 ボランティアの活用状況 | 67 |
| (4) 渉外活動 | 69 |
| 5. その他の入館者サービス | 72 |

国立西洋美術館の概要

1. 目的

国立西洋美術館は、昭和34年、東京・上野公園の一角にフランス政府から寄贈返還された松方コレクション（印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）を基礎に、西洋美術作品を広く公衆の観覧に供するとともに、西洋美術を専門的に調査研究する機関として開館した。

以来、これまで広く西洋美術全般を対象とする唯一の国立の美術館として、展覧事業のみならず、西洋美術に関する作品及び資料の収集・保存、調査研究、教育普及、出版物の刊行等を行ってきた。

当館の目的は、現在及び将来においてできる限り効果的に西洋美術に関する作品を収集・展示し、また、幅広い人々に作品への理解と楽しみが深められるように、コレクションを管理かつ拡充・保存し、美術情報、美術館教育の調査研究に努めることである。

2. 土地・建物

| | |
|-------|---------|
| 建面積 | 3,714㎡ |
| 延べ面積 | 17,547㎡ |
| 展示面積 | 4,420㎡ |
| 収蔵庫面積 | 1,097㎡ |

3. 定員 31人

4. 予算 1,182,412,000円

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
 - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
 - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
 - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
 - (4) 外部委託の推進
 - (5) 事務のOA化の推進
 - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
 - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

実績

1. 業務の一元化
情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働
人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。
2. 省エネルギー等(リサイクル)
 - (1) 光熱水量
節水、節電による省エネルギーについての文書を職員へ回覧し、意識の啓発を図るなどして省エネルギー化に努めた。
ア. 電気 使用量 5,393,778kwh(平成15年度比100.14%) 料金 74,448,936円(平成15年度比97.19%)
イ. 水道 使用量 26,237 m³(平成15年度比108.66%) 料金 15,846,126円(平成15年度比85.83%)
ウ. ガス 使用量 667,025 m³(平成15年度比98.43%) 料金 31,182,382円(平成15年度比95.00%)
 - (2) 廃棄物処理量
コピー機の周辺に両面コピーを促す表示を行い廃棄物の減量化に努力している他、LANの活用によるペーパーレス化に努めた。
ア. 一般廃棄物 19,495 kg(平成15年度比93.01%) 料金 361,433円(平成15年度比93.01%)
イ. 産業廃棄物 9,720 kg(平成15年度比114.89%) 料金 270,308円(平成15年度比124.08%)
 - (3) その他 古紙の再利用によるリサイクル、OA機器のトナーカートリッジリサイクルによる再生使用
3. 施設の有効利用
講堂等の積極的な利用を推進し、展覧会に関する講演会、レクチャーの他、外部団体の見学会、研修会、会議等への有効利用を図った。
講堂等の利用率 26.02% (95日/365日)

| | |
|------------------|-----|
| 講演会 | 10日 |
| スライドトーク等 | 15日 |
| ワークショップ | 11日 |
| 音楽プログラム(コンサート含む) | 4日 |
| 先生のための鑑賞プログラム | 4日 |
| 研修会、見学会、内覧会、協議会等 | 51日 |
4. 外部委託
平成16年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。今後も各業務の見直しを行い、外部委託の可能なものの検討を進めていく。

- | | | |
|----------|--------------------|------------------|
| 1 会場管理業務 | 7 広報物等発送業務 | 13 ホームページ改訂・更新業務 |
| 2 設備管理業務 | 8 美術館情報システム等運用支援業務 | |
| 3 清掃業務 | 9 収入金等集配金業務 | |
| 4 保安警備業務 | 10 レストラン業務 | |
| 5 機械警備業務 | 11 ミュージアムショップ業務 | |
| 6 情報案内業務 | 12 ホームページサーバ運用管理業務 | |

5. O A化

館内LANの整備状況

全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時に帳簿類へ自動記帳化を図るなど、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。

紙の使用量 577,500枚（平成15年度比98.89%）

- A 4 525,000枚
- A 3 22,500枚
- B 4 15,000枚
- B 5 15,000枚

6. 一般競争入札

代替性の無い、極めて貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数の業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費の削減に努めている。

一般競争入札件数 2件（総契約件数78件）

- 1 国立西洋美術館設備総合管理業務
- 2 国立西洋美術館設備総合保全業務

7. 評議員会，外部評価委員会

（1）評議員会

開催回数 1回

議事内容

第5回評議員会 平成16年6月14日（月）12:30～15:00

- （1）平成15年度事業報告について
- （2）平成16年度事業計画について
- （3）展覧会計画
- （4）その他

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も、来館者サービスの向上を考慮しつつ業務運営の一元化、省エネルギー化を図り、平成15年度に引き続き事業全般において効率化の達成に努めた。

業務効率化では、所蔵美術作品の貸借などをより機能的・効率的に運営するために、庶務課内の組織見直しを行った。また、入館者へのサービス向上などをより適切に、効率的に実施するための国立西洋美術館構内整備検討委員会を平成15年度に引き続き開催し、業務機能の適正化及び効率化を推進した。

施設利用の面では、外部団体への会議室や講堂の貸し付け、様々な鑑賞会・研修会、海外機関からの視察訪問等を受入れたほか、地域の養護学校及び社会福祉団体の事業に協力し観覧料金の減免を行うなど、幅広い要望に応えるよう努め、施設の有効利用を推進した。

国立西洋美術館では職員の研修にも力を入れており、平成15年度に引き続き放送大学受講、英会話研修、救命講習、接遇研修等の各種研修を積極的に活用している。また、職員・看手を対象とした展覧会レクチャーを企画展ごとに行った。さらに平成16年度はパソコン講習を新たに開始したほか、東京消防庁本所防災館において震災を想定した基本的な防災訓練を行うなど、研修等を通じての理解促進、意識や取り組みへの改善に努力し、意識改革と資質の

向上及び組織の活性化を図っている。

省エネルギーの数値においては平成15年度同様に効率化に努め、平成16年度は下水道料金の見直しに着手し経費額の節減を図ることで、料金額について平成15年度と比較して85.83%に抑えることができた。また、文書の回覧化、共有化、一元化を推進したことで、紙の使用量についても平成15年度と比較して98.89%に抑えることができた。

【見直し又は改善を要する点】

平成16年度は、産業廃棄物（廃プラ、カン、ペットボトル等）の処理量が平成15年度と比較して124.08%と増加した。これは入場者数が平成15年度より増加したことが要因であったと考えるが、廃棄物減量化への努力は継続して進めていく必要がある。また、空調設備（クーリングタワー）からの蒸発水量を把握、申請することにより、下水道料金の縮減を図り効率化を推進した。今後とも業務運営について見直し、改善に努め、効率化を引き続き維持していく必要がある。

【計画を達成するために障害となっている点】

入場者数や季節の変化によって、光熱水量が増減することとなり、それを正確に把握することは困難である。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 収集・保管

(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況

中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

(国立西洋美術館)

中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。

(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

実績

| | | | |
|-----------|------------------|------------------|--|
| 1. 購入 | 30件 | | |
| 2. 寄贈 | 23件 | | |
| 3. 寄託 | 9件 | | |
| 4. 陳列品購入費 | 予算額 400,465,000円 | 決算額 397,240,000円 | |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度は絵画1点、素描1点、版画26点、書籍2点を購入したほか、バルトロメオ・コリオラーノ等の版画22点、参考作品1点の寄贈、また、シモン・ヴーエ、ギュスタヴ・ドレ等、オールドマスターの絵画8点、素描1点の寄託を受け入れた。平成16年度の特記事項としては、通常の購入予算を超える金額でアルベール・グレーズの絵画《収穫物の脱穀》を購入したことがあげられる。平成15年度から繰越した購入予算を合わせて、通常予算では購入できないキュビズムの大作を購入できたことは、独立行政法人化による弾力的な会計制度を活用することによって初めて可能になったことであり、当館の展示作品の質を高めることに大きく貢献することとなった。この作品は1912年というキュビズム運動の最盛期に制作されたもので、グレーズの代表作として世界的に知られた作品である。ピカソやブラックというビッグネームの影に隠れていたこと、また、横が3m50cmを超える作品の大きさと、カンヴァスが巻かれて保管されていたことによる保存状態に対する懸念など、売り手の側からすればやや不利な条件が重なり、この作品を入手することができた(言い添えれば、最良ではないにしても本作品の保存状態は決して悪いものではない)。国立西洋美術館は「中世末期から20世紀初頭までの西洋美術」を扱うこととしている。「20世紀初頭」という定義にはやや幅があるが、当館の設立の出発となった松方コレクションには1910年から20年にかけてのやや保守的なフランス絵画が非常に多い。その意味では、1912年のグレーズ作品は当館の所蔵品に一層の幅を与えるものであり、当館の所蔵品として相応しいものとする。

【見直し又は改善を要する点】

作品購入予算のほぼすべてに相当するような高額な作品が購入候補となったため、当然のことであるとはいえ、価格が適正かどうかの判断に予想以上の時間がかかってしまった。購入委員会に推薦するまでの決断に長時間を必要とし、また、当該作品が当初から有力視されていたことは、他の購入候補作品を積極的に探す気力をやや低下させてしまったことは否めない。この作品を購入できなかった可能性もあったわけで、今後はこの点についても見直しを行い、

より柔軟に対応できるような方策を考えていくことが必要である。

*添付資料

収集した美術作品件数の推移（事業実績統計表 p.1）

寄託された美術作品件数の推移（事業実績統計表 p.2）

購入・寄贈美術作品の一覧（事業実績統計表 p.68）

(2) 保管の状況

中期計画

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。
- (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

実績

1. 温湿度

展覧会場

空調実施時間 24時間

作品への影響を最低限とするため、下記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。

通 期： 温度20～22 湿度50～55%

(夏期のみ： 温度22～24 湿度50～55%)

夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。

収蔵庫

空調実施時間 24時間

温度20～22 湿度50～55%

2. 照明

器具： 蛍光灯（紫外線カット）、スポットライト（紫外線・赤外線カットフィルター）

照度： 紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下

それ以外の作品 200ルクス以下

3. 空気汚染

館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に行っている。また、各種工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。

4. 防災

監視

火災総合受信盤及び監視カメラによる監視。（中央監視室・総合受付）

館全体には、非常放送設備による放送、非常通報設備による行政機関への連絡。

有事の際には館職員による自衛消防隊、委託業者による警備員、巡視等が観覧者の避難誘導を行う。

夜間は機械警備による監視である。

消火設備

展示室：予作動型スプリンクラー設備、屋内消火栓、消火器（強化液・粉末・水バケツ等）、排煙設備、非常放送設備

収蔵庫：二酸化炭素消火設備、ハロゲン化物消火設備

自動火災報知器

展示室・収蔵庫：煙感知器、熱感知器等

防災対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防災マニュアル（地震、火災、停電）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行っている。

平成17年1月24日（月）及び2月15日（火）に、東京消防庁本所防災館にて、震災を想定した基本的な防災訓練（消化体験等）を実施した。（2回に分けて実施）

5. 防犯

警備（原則として昼間は有人警備、夜間は機械警備）

館全体：開館時間中は看視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備。

絵画：美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用。

保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル（作品接触、破壊、盗難）の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

館内に収蔵されている期間の環境のみならず、館外に貸し出される作品が置かれる環境も管理・記録する目的で、温湿度データロガーを貸し出し作品に装着しているが、これは同時に借り入れ館に環境の適正な保全・管理を促すことにも良好に寄与していると考える。

平成16年度内に開催した「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展」および「聖杯 - 中世の金工美術」展では、数多くの新規の造作を使用した。その準備段階において作品に有害な化学物質が極力少ない材料を慎重に調査・選定し、展示計画に支障なく用意することができた。

また、平成16年度より、館内への虫類の侵入及び生息状況の予備調査を開始した。当館ではかねてより館内の湿度を狭い範囲に安定させることにより、温湿度変化による作品への影響を抑えると同時に、生物による作品への加害(カビの発生など)を起りにくくするという方針で保存管理を行い、これまで作品に目立った虫菌害が起ることを防ぐことができていた。しかし一方で、館内の様々な場所でゴキブリ、羽蟻、クモなどの虫類が徘徊しているのも目につくことがある。これらの生物の中には文化財の保存上、害虫と考えられているものも含まれており、直接間接に作品に被害を及ぼす可能性があるのに加え、衛生などの観点からも、できる限り館内への侵入、生息を防ぐ必要がある。臭化メチルの全廃などを機に、これまでの薬剤を使用した燻蒸に頼った害虫対策から、施設の総合的な見直しなどによるIPM(Integrated Pest Management)に則った害虫対策への移行が世界的に進められている。当館のこれまでの方針もIPMの考え方に近いものであったが、これを一層進めていくための準備段階として、今回まず虫類の館内への進入経路、生息状況等の実態把握を目的とする長期的な調査を開始した。

平成16年度は、作品点検調書を1件作成した。これは、新規に購入をした絵画についてのものである。(平成16年度末作品点検調書作成件数：絵画作品355点、ブロンズ彫刻作品54点、工芸作品7点)

【見直し又は改善を要する点】

作品の保全管理のため、展示会場の温度、湿度、照明は諸条件に従って厳密に管理されている。しかし、この環境は来館者にとっては快適と感じられない場合もある。特に夏期の温度設定は来館者の反応を見つつ至った設定ではあるが、すべての来館者が満足できるとは限らない。そのため、今後も検討を重ねていくと同時に、来館者に理解を求める働きかけも行っていきたい。

平成16年度は、新設した版画素描専用収蔵庫の使用を開始した。今後も収蔵設備については、空気環境等の状況の変化を継続して観測しながら、機能的な使用を図っていきたい。

(3) 修理の状況

中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

実績

1. 絵画 2件

彫刻 5件

タピスリー 1件

額縁 3件

2. 修理経費 予算額 50,000,000円 決算額 13,234,000円

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

当館では保存修復室及び保存科学室を設置しており、このスタッフを中心として外部技術者等を活用し、収蔵作品の適切な保存、調査及び計画的修復を行っている。修理業者が保存修復を行う際には研究員の監督指導の下で行っており、作品の取り扱いについてより一層の注意を図り、保存修復処置の報告書を提出することとしている。

また、他機関との情報交換の円滑化、当館に寄せられる修復・保存上への協力要請への対応等、美術館等への修復保存に関する寄与を図っている。

平成16年度は、タペストリー《シャンボール城》について、今後の展示に耐え、長期保存にも耐えうる保存状態にするための修復処置を行うこととし、一年計画で修復を実施した。また、平成13年度に寄贈を受入れたピストルフィ彫刻作品についても処置計画分を引き続き実施した。

調査研究では、IIC国際会議「20th Congress of the International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works (IIC)」(スペイン・ビルバウ)に参加し、同時にケルン大聖堂修復所、ミュンヘン・グリプトテークにて石材修復技術調査を行ったことが成果であった。また、特定国派遣研究者事業(日本学術振興会)及び国立西洋美術館在外研究員制度により、イタリア及び英国において保存環境整備と維持管理に関わる調査、絵画の非破壊調査法に関する調査・研究を実施した。

その他の事業として、平成16年度も引き続き保存修復事業の内容と実績の公開を図るため、新館1階の展示場内に資料展示のスペースを設けて、平成10・11年度に実施された彫刻の免震化と修復の工程を、写真、実物資料、模型、ビデオなどを使い、一般の入場者にも分かりやすく紹介する「前庭彫刻 免震化と修復」を実施しており、観覧者の好評を得ている。

【見直し又は改善を要する点】

当館彫刻の免震化において、前庭に設置する彫刻については、ロダン作「地獄の門」を始めとして免震化を施し順次再設置が行われており、そのほとんどが終了しているところである。しかし、当館の前庭は地下の企画展示館の天井部分に当たるため、建築上、前庭での物理的な強度に耐えうる設置位置の選択肢が限られてきてしまうという問題があり、完全な前庭彫刻の免震化再設置が実施されるまでには至っていない。今後、残りの前庭彫刻の免震化については外部の技術者及び識者の意見も聴きながら計画を立案し、設置を行っていきたい。

*添付資料

修理した美術作品の点数(事業実績統計表 p.1)

修理した美術作品の一覧(事業実績統計表 p.94)

2. 公衆への観覧

(1) 展覧会の状況

中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

(国立西洋美術館)

年3回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

実績(総括表)

- 1. 常設展
版画展示 3回(「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」、「オランダ・マネリスム版画展」、「マックス・クリンガー版画展」)
子どもから楽しめる美術展 1回(「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」)
- 2. 企画展等 4回(中期計画記載回数:年3回程度)
共催展「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」
自主企画展「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」
共催展「マティス展」
共催展「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」
- 3. 入場者数 999,917人(目標入場者数736,000人)
- 4. 平成16年度貸与件数 5件6点(海外3件4点、国内2件2点)
- 5. 展覧会開催経費 予算額 277,019,000円 決算額 275,841,000円

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

年間を通じて多くの方々が企画展覧会と常設展示を訪れ、全体としてはバランスのとれたものであったと考える。また、平成16年度は展示の充実以外の面における活動についても推進を図っており、より多くの人々に美術館に親しむ機会を持っていただくことを目標に、地域や観光事業と連携した様々な普及広報事業の実施に努めた。とりわけ、自主企画展「聖杯 - 中世の金工美術」で試みた関連イベントは好評であった。「聖杯」という馴染みのないものが主題であったこともあり、今後も展覧会の内容に応じた広報活動をおこなっていきたい。

【見直し又は改善を要する点】

古代彫刻という地味な展覧会が春に、マティスというきわめて知名度の高い展覧会が秋に開催された。このふたつ

はいろいろな意味で対照的なものであったが、あらためて当館がかかえている問題、すなわち、15から20万人程度の入館者を期待できる中規模の共催展を実現することの難しさを実感させることになった。周年事業などで新聞社が思い切った予算を投入した場合、多くの入場者が期待できるのはある意味で当然のことである。しかし、いつも周年事業があるわけではない。ごく通常の予算規模である程度の収益が見込めるような中規模の展覧会を実現していくことは当館にとって重要な課題である。今後の研究テーマとしたい。

*添付資料

入館者数の推移（事業実績統計表 p.4）

入場料収入の推移（事業実績統計表 p.7）

「常設展」

方 針

フランスの建築家ル・コルビュジエが設計した本館では、18世紀以前に活躍した芸術家の絵画・彫刻作品を展示しており、キリスト教を主題とした多くの宗教画を見ることができ、新館では、19世紀から20世紀の作品が展示されている。また、素描のコレクションとしては、18世紀から19世紀のフランスの芸術家の作品が中心に所蔵され、版画コレクションには、15世紀から20世紀初頭までの主要な西洋版画家の作品が所蔵されており、これら版画・素描のコレクションは、テーマを設けて定期的に新館の1室で展示を行っている。さらに、彫刻作品として美術館前庭にロダンの《地獄の門》、《考える人》、《カレーの市民》と、プーデルの《弓をひくヘラクレス》を展示しているほか、館内にはロダンに加え、カルボー、マイヨールの作品も展示している。

なお、来館者が常設展の質の高い所蔵作品をいつでも鑑賞できるようにという方針と、通年にわたり展示するものである西洋美術作品の特性のもと、当館の代表的な所蔵作品は年間を通じて展示され、展示替えは特別な場合を除いて行われていない。(貸出中の作品の代替として、普段は収蔵庫にしまわれている作品を展示することはある。)また、版画素描展示室において、テーマを設けて版画・素描コレクションの展示(各3ヶ月程度)を年2回開催している他、所蔵作品を中心に常設展示の作品を活用し、特定のテーマに沿って紹介する教育プログラム「Fun with Collection(子どもから楽しめる美術展)」等の小企画展を開催するなど、魅力ある常設展となるように努めている。

実 績

1. 開催期間

平成16年4月1日～平成17年3月31日(309日間)

「ルネッサンス以降のヨーロッパ近世絵画」、「近・現代絵画と彫刻」

(平成16年9月7日(火)から9日(木)まで、展覧会準備、館内整備のため臨時休館)

(所蔵品展のみの開催期間 109日間)

下記の展示は常設展と併設

平成16年3月2日(火)～5月30日(日)(79日間)(平成16年度は53日間)

版画作品展(春)「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」

平成16年9月10日(金)～12月12日(日)(83日間)

版画作品展(秋)「オランダ・マニエリスム版画展」

平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間)(平成16年度は21日間)

版画作品展(春)「マックス・クリンガー版画展:《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」

平成16年6月29日(火)～9月5日(日)(61日間)

「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」

2. 会 場

前 庭 屋外1階

本 館 1階～2階

新 館 1階～2階

3. 出品点数(常設作品点数)

前 庭 6件

本 館 79件

新 館 100件

4. 入館者数 354,816人(目標入場者数243,000人)

うち常設展のみの入館者数124,439人

5. 入場料金 一般420(210)円、大学生130(70)円、高校生70(40)円、小中学生無料

()内は20名以上の団体割引料金。引率者は20人に対し1人の割合以内で無料

65歳以上の方は無料

心身の障害者及び、その付添者は無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料
毎月第2、第4土曜日及び、文化の日は常設展示無料観覧日

6. 入場料収入（常設展のみの入場料収入の合計24,351,600円）

7. アンケート調査

調査期間 平成17年2月24日～平成17年2月27日（4日間）

調査方法 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

アンケート回収数 300件

アンケート結果

- ・大変良い34.7%（104件）
- ・良い51.0%（153件）
- ・まあまあだった10.7%（32件）
- ・あまり良くなかった0.3%（1件）
- ・良くなかった0.3%（1件）
- ・無回答3.0%（9件）

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

常設展示については、一般の方々からも、専門家の方々からも好意的なご意見を頂き、平成16年度の目標入場者数を大幅に上回った。

国立西洋美術館では、前述のとおり常設展の展示をできるだけ変更しないことを原則としている。従って、定期的に展示替えを行う他の美術館とは異なり、展示替えは原則としておこなっていない。他方、年2回（春と秋）版画素描展示室でテーマを決めて版画素描の展覧会を開催している。平成16年度は16年春にロマン主義を代表する画家のひとり、ドラクロワのリトグラフ連作による「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」、秋にオランダ・マニエリスムを代表する版画家たちの作品による「オランダ・マニエリスム版画展」、そして17年春にはクリンガーの代表的な版画作品による「マックス・クリンガー版画展：《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」を行った。また、夏には、恒例の教育プログラムの性格をもつ「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」を開催した。今回の「Fun with Collection」では、絵や彫刻ではなく、それらを展示している建物を主役として、国立西洋美術館の本館を設計したフランスの建築家ル・コルビュジエの美術館を隅から隅まで探険し、建築の面白さをじっくり味わうことができるプログラムとなった。

平成16年度は常設展でのボランティアの活用においても進展があった。平成17年度より始まる常設展示でのスクール・ギャラリートークに先駆けて、11月から当館で作成されたファミリー向け観賞用教材「びじゅつーる」の貸出担当及び「どうびじゅつ」がボランティア・スタッフの手によって開始され、美術に関する理解を深めることに寄与している。

また、引き続き、読みやすさや適正な配置に配慮した作品解説パネル・会場内サインの整備に努めたほか、入館者から順路が分かりにくいという意見があったことを踏まえ、新たに「国立西洋美術館本館参考順路図」を作成し、会場内で無料配布を行った。

子どもから大人、さらに研究者や専門家までの幅広い層を対象とした展示がされたことは大きな成果であった。今後も一層の充実に取り組んでいきたい。

【見直し又は改善を要する点】

毎年、数点ずつ簡単な作品解説パネルを設置しているが、今後とも解説パネル、サイン及びキャプション等の見直し等を進め、一層親しまれ、更に魅力ある常設展にするべく努力を重ねていきたい。

「ドラクロワ版画展<ファウスト>と<ハムレット>」(常設展版画作品展)

方 針

所蔵作品である、ロマン主義を代表する画家ドラクロワの著名なリトグラフ連作の展観。保存の観点より、当館では特定の版画作品を常設で展示することができない。従って、定期的な入れ替えの展示が必要であるが、今回は、それをフランス・ロマン主義の代表作ともいえる2つの連作に絞った。貴重なこれらのシリーズはなかなか一括して目にする事ができず、その意味では大変貴重な機会となった。

実 績

1. 開催期間 平成16年3月2日(火)～平成16年5月30日(日)(79日間)
(うち平成16年度53日間)
2. 会 場 国立西洋美術館新館2階 第3展示室
3. 主 催 国立西洋美術館
4. 出品点数 31件
5. 入館者数 常設展会場内の版画素描展示室で開催した企画展示のため、入場者数の集計は行っていない。
6. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。
7. 入場料収入 常設展入場料金に含まれる。
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容
ロマン主義を代表する画家のひとり、フランスのウジェーヌ・ドラクロワの制作した二つの連作「ファウスト」と「ハムレット」は、それぞれ早い時期のリトグラフ作品の傑作として高い評価を与えられてきた。この展覧会では、まとまって目にする機会の少ない、これら二つのリトグラフ連作を同時に展示したものである。
10. 広報
インターネットホームページ、ポスター、国立西洋美術館ニュース等での情報提供を実施し、広報活動に努めた。
11. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【雑誌】

| 誌 名 | 掲載日 | 発 行 | 備 考 |
|-------|-----------|---------------------|-------------------------|
| 文化庁月報 | 2004.3.25 | 文化庁/編集 ぎよ うせい/発行 | 3月号P42 主任研究官 高橋明也 執筆 |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

ドラクロワの版画作品のみに絞って展示したことは、観覧者へのインパクトという点では成功であった。油彩では窺えないこの画家の、新たな面が浮かび上がったと考える。

【見直し又は改善を要する点】

次回はもう少し展示スペースを工夫したうえで、ロマン主義の版画そのものを問い直す企画に発展させたい。ただし、それにはもう少し所蔵作品の厚みを増やす必要があるため、今後の課題としたい。

「オランダ・マニエリスム版画展」(常設展版画作品展)

方 針

1600年頃、オランダにおいて、イタリアに端を発するマニエリスムが見事な結実をもたらしたことはあまり知られていない。写実と反写実との共存が最大の特徴と言われるオランダ・マニエリスムの特質をもっともよく伝えるのが、エングレーヴィング版画であった。精緻な表現を可能とするこの版画技法は、絵画の複製化の手段として用いられてきた。オランダ・マニエリスムの版画も大半は複製版画として制作されたものであるが、その代表者でもあるヘンドリック・ホルツィウスの版画を、単に複製という言葉で形容することはとてもできないことであろう。本展では、ホルツィウスを中心にオランダ・マニエリスムを代表するエングレーヴィング版画を紹介する。

実 績

- 1.開催期間 平成16年9月10日(金)～平成16年12月12日(日)(83日間)
- 2.会 場 国立西洋美術館新館2階 第3展示室
- 3.主 催 国立西洋美術館
- 4.出品点数 37件
- 5.入館者数 常設展会場内の版画素描展示室で開催した企画展示のため、入場者数の集計は行っていない。
- 6.入場料金 常設展入場料金に含まれる。
- 7.入場料収入 常設展入場料金に含まれる。
- 8.担当した研究員数 1人
- 9.展覧会の内容
本展では、オランダ・マニエリスムを代表する版画家たちの作品37点を展示した。画面は小さいものの、そこには、理念的な強い主題と日常的風俗描写、非現実的な場面設定と精緻な細部描写が緊密に結び付いた、振幅の大きな表現を見ることができる。よく知られたオランダ美術とは異なる、「もうひとつのオランダ美術」を楽しむことができる展覧会となった。
- 10.広報
インターネットホームページ、ポスター、国立西洋美術館ニュース等での情報提供を実施した。また、台東区教育委員会を通じての台東区内小・中学校への展覧会情報、小・中学生観覧料金無料化のPRを実施したほか、第46回「教育・文化週間」(平成16年11月1日～7日)における関連行事として登録し、幅広い広報活動に努めた。
- 11.展覧会関連新聞・雑誌記事等

【雑誌】

| 誌 名 | 掲載日 | 発 行 | 備 考 |
|-------|-----------|---------------------|--------------------------|
| 文化庁月報 | 2004.8.25 | 文化庁/編集 ぎょ うせい/発行 | 10月号 P41 学芸課長 幸福 輝 執筆 |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

地味な企画であったがマティス展と同じ会期だったこともあり、意外な反響を受けた。当館のコレクションの幅の広さを知ってもらおうと同時に、あまり知られていない分野の紹介に今後も力を注いでいきたい。

【見直し又は改善を要する点】

現在は若干の解説入りのパンフレットを無料で発行しているのだが、写真入りの小冊子がほしいとの要望が少なからず寄せられた。今後の課題としたい。

「マックス・クリンガー版画展：《イヴと未来》《ある生涯》《ある愛》」（常設展版画作品展）

方 針

マックス・クリンガーは、生涯を通じておよそ 450 点の版画作品を制作しているが、なかでも連作として制作された 14 作は、彼の代表的なものとされている。国立西洋美術館には、この 14 の版画連作のうち 11 作が現在所蔵されている。

今回は、そのなかから 3 作、《イヴと未来》、《ある愛》、《ある生涯》を展示した。いずれの作品も、ひとりの女性を中心的モチーフとして扱っているもので、単に彼の想像力に富んだ幻想的世界を示すばかりでなく、社会の状況を批判的に捉える視点をも示唆するものとなっている。モラルなどによって構築された社会秩序のなかで、葛藤を引き起こさざるをえない個人の欲望の問題が、これらの作品では取り上げられている。それらが伝えてくるメッセージは、現在においても多くのことを考えさせてくるアクチュアルなものと言えるであろう。

実 績

1. 開催期間 平成 17 年 3 月 8 日（火）～ 5 月 29 日（日）（73 日間）
（うち平成 16 年度 21 日間）

2. 会 場 国立西洋美術館新館 2 階 第 3 展示室

3. 主 催 国立西洋美術館

4. 出品点数 31 件

5. 入館者数 常設展会場内の版画素描展示室で開催した企画展示のため、入場者数の集計は行っていない。

6. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。

7. 入場料収入 常設展入場料金に含まれる。

8. 担当した研究員数 1 人

9. 展覧会の内容

マックス・クリンガーは、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて活躍したドイツの代表的な芸術家のひとりである。彼の活動は、絵画、彫刻、版画と多岐にわたり、絵画作品としては《キリストの磔刑》や《オリュポスのキリスト》、《パリスの審判》といった代表作を制作し、また彫刻では、1902 年のウィーン分離派展に展示された《ベートーヴェン像》がよく知られている。しかし、彼の芸術家としての評価を高めてきたのは、こういった絵画や彫刻の作品というよりも、むしろ版画であった。クリンガーは、生涯を通じておよそ 450 点の版画作品を制作しているが、なかでも連作として制作された 14 作は、彼の代表的なものとされている。当館には、この 14 の版画連作のうち 11 作が現在所蔵されており、今回は、そのなかから 3 作、《イヴと未来》、《ある愛》、《ある生涯》を展示した。

10. 広報

インターネットホームページ、ポスター、国立西洋美術館ニュース等での情報提供を実施し、広報活動に努めた。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

展覧会の自己点検評価については、平成 17 年度に行う。

【見直し又は改善を要する点】

「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジェの美術館」(子どもから楽しめる美術展)

方 針

Fun with Collection は、国立西洋美術館の所蔵作品を中心に、毎回特定のテーマを設けて美術作品を紹介する小企画展である。この企画は、子どもから大人までを対象に、美術作品を様々な視点から共時的に観賞する機会を提供することによって、美術作品をより身近なものとして理解し、楽しんでもらうことを目的としているが、今回は美術作品そのものではなく、それらが展示される建物をテーマとした。

フランスの建築家ル・コルビュジェが設計した当美術館の本館は、今から45年前に竣工した。ル・コルビュジェは、20世紀を代表する建築家として、フランスを中心に多くの建築物を設計している。代表的な建物には、1927年のジュネーヴの国際連盟本部、ポワッシーのヴィラ・サヴォア(1929-31)、マルセイユのユニテ・ダビタシオン(1947-52)、ロンシャンの聖堂(1950-54)などがある。彼は、人間中心主義の思想のもとに身体を建築の尺度として採用し、独自のモデュールを使って設計をした。また、新しい時代の建物について5つの原則を提唱した。それらは、1)ピロティ、2)屋上庭園、3)自由な平面、4)自由な立面、5)水平連続窓(独立骨組)である。ル・コルビュジェが設計した多くの建物には、このような原則が採り入れられており、本館にも、その幾つかが反映されている。

今回のFun with Collectionでは、ル・コルビュジェ建築の特徴が、本館の中でどのように生かされ、またそれによってどのような空間が構築されたのかを紹介する。

普段は気にとめることの少ない建物の様々な要素や、空間の構成について、来館者自身の目で確認し、体感することを促すことを目的とする。

実 績

1. 開催期間 平成16年6月29日(火)～平成16年9月5日(日)(61日間)
2. 会 場 国立西洋美術館 本館、新館2階 第3展示室
3. 主 催 国立西洋美術館
協 力 (財)西洋美術振興財団
4. 入館者数 Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず、常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、入場者数の集計は行っていない。
5. 入場料金 常設展入場料金に含まれる。
6. 入場料収入 常設展入場料金に含まれる。
7. 担当した研究員数 6人(内、客員研究員1名、建築家2名)
8. 展覧会の内容
国立西洋美術館の本館を設計したフランスの建築家ル・コルビュジェは、身体のサイズを利用したモデュールという特別の定規や、それまでとは違う方法を使って新しい建築を考えた。そして、1959年にできた国立西洋美術館本館には、ル・コルビュジェの色々なアイデアが活かされている。今回のFun with Collectionでは、絵や彫刻ではなく、それらを展示している建物を主役としてル・コルビュジェの美術館を隅から隅まで探険し、建築の面白さをじっくり味わうことができるプログラムとなった。
10. 広報
インターネットホームページ、ポスター、チラシ等での情報提供、台東区教育委員会を通じての台東区内小・中学校への展覧会情報、小・中学生観覧料金無料化のPRを実施した。また、文部科学省をはじめとした府省庁等が連携して実施する「こども見学デー」における関連イベントとして登録し、幅広い広報活動に努めた。
11. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【雑誌】

| 誌 名 | 掲載日 | 発 行 | 備 考 |
|------------|-----|-------------------|-----------------|
| O-CUBE 7月号 | | リビングデザインセンターOZONE | P14 information |

| | | | |
|------------------------|-----------|---------------------|---------------------|
| ポテトチップス | 2004.7.20 | ポテトチップス編集部 | No.34 夏～秋号 |
| 文化庁月報7月号 | 2004.7.25 | 文化庁 / 編集 ぎょうせい / 発行 | P 44 主任研究官 寺島洋子執筆 |
| SWISS CURTURE IN JAPAN | 2004.8. | スイス大使館 文化・広報部 | |
| UNIVERS DES ARTS JAPON | 2004.8.20 | アートコミュニケーション | ユニヴァーサル・デザール誌 日本版 |
| 東京アートナビ 8月号 | 2004.8. | 生活ガイド社 | P 8 |
| CASA BRUTUS AUGUST | 2004.8. | 株式会社 マガジンハウス | IN & Out Doors P 25 |
| 月刊モエ | 2004.9. | 白泉社 | MOE GARDEN P 65 |
| 家庭画報 | 2004.9.1. | 世界文化社 | |
| モダンリビング 9月号 | 2004.9. | アシェット婦人画報社 | P 149 |
| CASA BRUTUS 特別号 | 2004.9.1. | 株式会社 マガジンハウス | P 131 |
| 【ネット関連 (web)】 | | | |
| 掲 載 | 掲載日 | 制 作 | 備 考 |
| 美術館.Com | | 日本スタデオ | |
| アートナビ | | | |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

美術作品を展示する箱である建築に注目することによって、来館者に美術作品そのものだけでなく、作品が建物や展示室によっていかに変化して見えるかなど、作品をとりまく環境の重要性、ひいては美術館の機能に対する興味を喚起することができた。近年、様々な分野で建築に対する興味が起きており、美術館で建築の展覧会を開催する機会も多くなった。しかし、そうした展覧会の多くは、図面や模型による展示が多く、建築が専門でない人々にとっては理解しにくいものである。それに対し、この企画は図面ではなく建物自体を来館者が体験できるという点で、空間や建築への深い理解へ繋げることができた。

また、常設展示室の1室では、建築家ル・コルビュジエの紹介と、彼が設計した国立西洋美術館本館の設立経緯の資料を展示して、本展のテーマを別の側面から補足した。さらに、Fun with Collection で常に実施しているテーマと関連した創作・体験プログラム、レクチャー、建物ツアーも多数の応募があり好評だった。

普段は国立西洋美術館へ来ないタイプの人々の来館を促すことができたと同時に、当館が、モダニズム建築の巨匠の一人であるル・コルビュジエが日本に残した唯一の美術館であることの普及にも繋がった。

【見直し又は改善を要する点】

当館の本館は、ル・コルビュジエの建築としての価値もあり、今回のような期間限定の企画とは別の形で建物を顕彰する必要があると考える。

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」(共催展)

方 針

1756年に教皇ベネディクトゥス14世がヴァチカン美術館を創設する以前から、教皇庁は古代ローマの彫刻を長きに亘って蒐集してきたが、18世紀以降も新たな発掘によって出土した作品を蒐集し続けてきた。その数は膨大であり、中には世界的に唯一無二の作品も含まれている。しかし、近代の彫り直しや磨き直しが加えられた作品も少なくない。今回の展覧会では、できるだけ近代の彫り直しの加えられていない、また、ギリシャ彫刻の模刻ではない、ローマ人の姿を紹介するという方向で準備を進めた。当初は17、18世紀の古代彫刻の発掘の歴史を絡めた内容を検討していたが、ヴァチカン側の意向や諸事情及び当館の諸事情がかみ合わず、現在の内容となった。結果として、西洋美術のジャンルとして重要な位置を占めるローマの肖像彫刻の歴史を、その誕生からその終焉までを6章85点の作品で構成し、そこからローマ人の生そのものが感じられるような内容を目指した。それらの中には考古学的に世界で唯一完全な状態で残る作品も含まれている。壮麗なローマ建築や神像とは異なる素朴なローマ的世界を紹介することを目的とした。

実 績

1. 開催期間 平成16年3月2日(火)～平成16年5月30日(日)(79日間)
(うち平成16年度53日間)
2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階
3. 主 催 国立西洋美術館、NHK/NHKプロモーション
後 援 外務省、文化庁、ローマ法王庁大使館
協 力 アリタリア航空、日本通運、西洋美術振興財団
4. 出品点数 85件
5. 入館者数98,146人(目標入場者数135,000人)
3月2日からの総入場者数130,618人(目標入場者数202,000人)
西洋美術のジャンルとして重要な位置を占めるローマの肖像彫刻の歴史を、その誕生から終焉までを構成し、そこからローマ人の生そのものが感じられるような内容を目指した展覧会であり、アンケート調査でも7割を超える入場者の方から有意義であったとの評価を頂き好評を得た。しかし、平成16年度目標入場者数135,000人に対し、98,146人と72.7%の実績となり、目標入場者数の達成には至らなかった。本展が彫刻作品の展示を主としたことから、観覧者に人気の高い絵画の展覧会に比べて入場してみたいと感じる切っ掛けを作るという面で動機付けが弱くなってしまった要因があったと考える。また、アンケート調査の結果からは本展の入場料金に対しての不満が感じられた。入場料金の設定については、展覧会の規模や内容に応じた柔軟な設定方法について今後も検討を続け、それを反映させることにより入場者数のさらなる増を目指していく必要がある。
6. 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、大学生900(510)円、高校生800(450)円、小中学生無料
割引券 一般1,200円、大学生850円、高校生750円
前売券 一般1,100円、大学生800円、高校生700円
2館共通入館券 一般2,000円、大学生1,400円、高校生1,200円
()内は20名以上の団体割引料金、引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料
心身の障害者及び、その付添者は無料
東京国立博物館「空海と高野山」展と2館共通入館券を実施
7. 入場料収入 26,595,700円(3月2日からの総入場料収入35,852,660円)
8. 担当した研究員数 3人(内1人は、客員研究員)

9. 展覧会の内容

ヴァチカン美術館古代美術、考古学部門の全面的協力により実現された、共和政ローマから初期キリスト教時代まで、約600年の間に制作された古代ローマ人の肖像彫刻を中心とした展覧会である。第1章「肖像の誕生」、第2章「肖像とアイデンティティ」、第3章「特徴的髪型をした女性の肖像：古代の装い」、第4章「肖像と永遠性」、第5章「帝国の象徴」、第6章「古代肖像の終焉」と、紀元前3世紀以来脈々と展開してきた古代ローマ肖像の最後の様相までを見ることができる展覧会である。

10. 講演会等（会期中に4回開催、うち平成16年度は1回）

- 1回 参加人数130人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
- スライドトーク等（会期中に6回開催、うち平成16年度は5回）
- 5回 参加人数270人（詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ）
- イヤホンガイドの実施（3月2日からの総利用者数17,106人）
- 利用者数12,673人（詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ）

11. 広報

新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の提供と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布、インターネットホームページ（NHKプロモーション）での割引引換券を掲載する等の広報を実施した。また、平成16年度には近隣の高等学校を訪問し、展覧会情報のPRをする等の積極的な広報活動を展開した。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|--------------------------|-------------|---------|-----------------------|
| 中日新聞 | 2004.3.4 | 中日新聞社 | 9面 |
| THE DAYLY YOMIURI(Tokyo) | 2004.4.1 | 読売新聞社 | |
| THE DAYLY YOMIURI(Osaka) | 2004.4.1 | 読売新聞社 | |
| 朝日新聞(東京・夕刊) | 2004.4.1 | 朝日新聞社 | MULLION, Museum Guide |
| 新美術新聞 | 2004.4.1 | 新美術新聞社 | 主任研究官 高梨光正執筆 |
| 産経新聞(東京) | 2004.4.2/9 | 産経新聞社 | アートカレンダー |
| 上毛新聞 | 2004.4.2 | 上毛新聞社 | 県外美術館・博物館 |
| 福島民報 | 2004.4.2/9 | 福島民報社 | 美術館・博物館だより |
| 朝日新聞(東京・夕刊) | 2004.4.3 | 朝日新聞社 | 文化 芸能 一展逸展 |
| 北羽新聞 | 2004.4.5 | | |
| 岩手日日新聞 | 2004.4.6 | 岩手日日新聞社 | |
| デーリー東北 | 2004.4.7 | デーリー東北社 | |
| 毎日新聞(東京) | 2004.4.7/14 | 毎日新聞社 | 美術館ガイド |
| 読売新聞(大阪・夕刊) | 2004.4.7 | 読売新聞社 | KODOMO 楽しむ |
| 読売新聞(北九州・夕刊) | 2004.4.7 | 読売新聞社 | KODOMO 楽しむ |
| 読売新聞(札幌・夕刊) | 2004.4.7 | 読売新聞社 | KODOMO 楽しむ、他 |
| 読売新聞(東京・夕刊) | 2004.4.7 | 読売新聞社 | KODOMO 楽しむ、他 |
| 岩手新聞 | 2004.4.8 | | |
| 下野新聞 | 2004.4.8/22 | 下野新聞社 | 展覧会だより |
| 中国新聞 | 2004.4.8 | 中国新聞社 | 東京エリア |
| 東京新聞 | 2004.4.8 | 東京新聞社 | 美術館・博物館 |
| 読売新聞(名古屋・夕刊) | 2004.4.8 | 読売新聞社 | KODOMO 楽しむ |
| 京都新聞 | 2004.4.10 | 京都新聞社 | |
| 十勝毎日 | 2004.4.10 | 十勝毎日新聞社 | |
| 苫小牧民報 | 2004.4.10 | 苫小牧民報社 | 文化 |
| 島根日日新聞 | 2004.4.12 | 島根日日新聞社 | |
| 新潟日報(夕刊) | 2004.4.12 | 新潟日報社 | 見る 聞く TOKYO |

| | | | |
|----------------------------------|-----------|-------------------|--------------|
| 新潟日報(夕刊) | 2004.4.12 | 新潟日報社 | 見る 聞く TOKYO |
| 読売新聞(東京・夕刊) | 2004.4.14 | 読売新聞社 | 美術館博物館情報 |
| 聖教新聞 | 2004.4.15 | 聖教新聞社 | 主任研究官 高梨光正執筆 |
| 徳島新聞(夕刊) | 2004.4.16 | 徳島新聞社 | |
| 釧路新聞 | 2004.4.17 | 釧路新聞社 | |
| 東久留米新聞 | 2004.4.20 | | |
| 岐阜新聞(夕刊) | 2004.5.15 | 岐阜新聞社 | |
| 長野日報 | 2004.5.17 | 長野日報社 | |
| Herald Tribune The Asahi Shimbun | 2004.5.21 | The Asahi Shimbun | |
| 東京新聞 | 2004.5.30 | 東京新聞社 | 評議員:森まゆみ氏執筆 |

【雑誌】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|---------------|------------------------|------------------|----------------|
| 文化庁月報 425号 | 2004.2.25 | 文化庁 | |
| ステラ | 2004.2.28-3.5 ~3.26 | NHKサービスセンター | |
| 週刊大衆 | 2004.3.1 | FUTABASYA | |
| ぴあ | 2004.3.1~5.3 | ぴあ株式会社 | ぴあテンART1位(5.3) |
| News week 日本版 | 2004.4.7 | 株式会社阪急コミュニケーションズ | |
| サライ | 2004.4.15 | 小学館 | |
| クロワッサン | 2004.4.25 | 株式会社マガジンハウス | |
| 音楽現代 | 2004.4.3 | 芸術現代社 | |
| 芸術公論 | 2004.4.3 | アイエフティー(株) | |
| 芸術新潮 | 2004.4.3 | 新潮社 | |
| 月刊うへの | 2004.4.3 | (株)上野のれん会 | |
| 月刊おとなりさん | 2004.4.3 | 株式会社ハーツ&マインズ | |
| 月刊美術 | 2004.4.3 | 実業之日本社 | 展覧会情報 |
| 月刊丸の内 | 2004.4.3 | 菱芸出版 | |
| 美術手帖 | 2004.4.4 | 株式会社美術手帖 | |
| 美術の窓 | 2004.4.4 | 生活の友社 | 展覧会情報 |
| pumpkin | 2004.4.4 | 潮出版社 | |
| 東北じゃらん | 2004.4.4 | リクルート | |
| プレゼント fan | 2004.4.4 | 公募ガイド社 | |
| B RIO | 2004.4.5 | 光文社 | ART展覧会はおもしろい |
| ZENBI | 2004.4.5 | 全日本美容業生活衛生同業組合 | |
| 家庭画報 | 2004.4.5 | 世界文化社 | FILE |
| クロスロードファン | 2004.4.5 | 世界文化社 | |
| 元気生活 | 2004.4.5 | ファンケル | |
| 和楽 | 2004.春の号 | 小学館 | |

【広報誌等】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|--------------------|-----------|----|---------|
| 日刊協同組合通信 No. 14964 | 2004.1.29 | | P10、P11 |

| | | | |
|--------------------------------------|------------|----------------------|------------------------|
| 月刊いちかわ 2月号 | | (株)エピック月刊 いちかわ編集室 | P32 |
| アーチ 52号 | | アートコレクショ ンハウス(株) | |
| Cabi ネット | 2004.02.15 | 社団法人時事画報 社 | P46 |
| 電通報 4434号 | 2004.2.23 | 株式会社電通 | |
| 京成らいん Vol.560 2・3月号 | 2004.2.25 | (株)京成エージェ ンシー | |
| 首都圏イベント情報 3月号 | 2004.3.1 | ターミナル情報 | |
| 日刊協同組合通信 No.14988 | 2004.3.4 | (株)協同組合通信 社 | |
| 東京リビング 330号 | 2004.3.4 | | |
| サイン&ディスプレイ Signs & Display No.531 | 2004.3 | マスコミ文化協会 | |
| いきいき 4月号 | 2004.3.10 | ユーリーグ株式会 社 | |
| Tokyo Walker 増刊 東京エンタテイメン トMAP | 2004 | | |
| TOWNNET | 2004.02 | | |
| Ryusei | 2004.03 | | EX-HIBITION |
| SignDisplays | 2004.03 | | |
| The Aster | 2004.03 | | |
| アワビ | 2004.03 | | |
| 月刊日本橋 | 2004.03 | | |
| 月刊ライト | 2004.03 | | |
| 巣鴨百選 | 2004.03 | | すがもタウンガイド |
| 話のひろば World | 2004.03 | | |
| びいーゆ | 2004.03 | | |
| 読売懸賞ドキドキ | 2004.03 | | |
| Hir@gana Times | 2004.04 | | Event |
| MEDICAL QOL | 2004.04 | | No.113 |
| MIT | 2004.04 | | Tea Break ART |
| 経営者会報 | 2004.04 | | |
| 月刊望星 | 2004.04 | | information |
| ジェイ・ノベル | 2004.05 | | 愛読者プレゼント |
| TIC マンスリー | 2004.05 | | MUSEUM SCHEDULE |
| 芸大美大を目指す人へ | 2004.05 | | EXHIBITION INFORMATION |
| 月刊新松戸 | 2004.05 | | |
| 東京メトロ沿線だより | 2004.05 | | |
| 松戸よみうり | 2004.02.08 | | |
| MMインフォメーション | 2004.02.15 | | |
| NEOインフォメーション | 2004.02.22 | | |
| ケihinインフォメーション | 2004.02.22 | | |
| SSインフォメーション | 2004.02.29 | | |
| The Family | 2004.03.05 | | ミュージアムニュース |
| 日々の新聞 | 2004.03.15 | | |

| | | | |
|------------------|-------------|--|---------------|
| 朝日マリオン(夕刊) | 2004.03.18 | | 美・博ピックアップ |
| 新美術新聞 | 2004.04.01 | | 主任研究官 高梨光正執筆 |
| グルメぴあ | 2004.04.06 | | プレゼント |
| mint | 2004.04.10 | | |
| UNIVERS DES ARTS | 2004.No.11 | | Points de vue |
| 月刊 htwi | 2004.No.24 | | |
| MY クロスワード | 2004.Vol.32 | | |
| avch | 2004.Vol.52 | | |
| Tokyo journal | 2004 春の号 | | |
| 個性派 ハヤシ画廊 | No.103 | | |

【テレビ放送】

| 番組名 | 放送日 | 制作 | 備考 |
|----------------|------------|-----|------|
| NHK/こんにちはいっと6県 | 2004.03.12 | NHK | |
| NHK/新日曜美術館 | 2004.03.21 | NHK | |
| NHK/新日曜美術館 | 2004.04.04 | NHK | |
| NHK/イタリア語会話 | 2004.05.10 | NHK | 館長出演 |

13. アンケート調査

調査期間 (抽出アンケート調査)
平成16年4月29日～平成16年5月2日(4日間)
(任意アンケート調査)
平成16年3月2日～平成16年5月30日(53日間)

調査方法 (抽出アンケート調査方法)
展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

(任意アンケート調査方法)
お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施した。

アンケート回収数 955件(抽出400件、任意555件)

アンケート結果

- ・大変良い26.91%(257件)・良い43.14%(412件)・まあまあだった20.00%(191件)
- ・あまり良くなかった0.63%(6件)・良くなかった3.87%(37件)・無回答5.45%(52件)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

かつて「ローマを学ぶ」ことが「ローマに学ぶ」と同義であったヨーロッパ文化の中では、古代ローマの肖像彫刻は極めて重要な意味を担っていた。ローマの列伝体の歴史叙述をそのまま代弁していたからである。したがって肖像彫刻とは見る側の歴史的想像力に大いに依存する形式であると言える。しかしながら、「ローマを学ぶ」ことが「ローマに学ぶ」と同義ではない文化環境にあっては、ローマ人の肖像彫刻ほど無意味なものもない。内容と乖離した審美的対象としての「人の顔」の形式としてのみ認識され、その「人の顔」が本来担っていた歴史的意味は影を潜めてしまう。

そもそも、18世紀にヴィンケルマンがあのある有名な『ギリシャ美術模倣論』や『古代美術史』を著して以来、「ローマ時代の彫刻」はギリシャ美術の称揚の手段となってしまった。そのため、イタリア半島の文化が非常に長い時間をかけて根付かせていった「ローマ人の彫刻」としての肖像形式の意義は、日本で紹介されることはほとんどなかったといつてよい。その点で今回の試みは評価されうるものと考えられる。

日本国内で行われた古代ローマをテーマにした展覧会は決して多くはなかったこともあり、カタログはさらなる一般的学習の一助として活用できるよう文献一覧の充実と、文化的背景に親しみをもてるようラテン文学研究者日向太郎氏の協力を得て、古代ローマ人の生活や人間性、思想などを垣間見ることの出来るようなコラムを挿入した。それにより、通読すればエトルリアの文化から帝政末期の初期キリスト教時代の文化、そして我々には親しみの乏しいラテン語という言語そのものへの初歩的アプローチへも誠実に誘えるような構成を実現することができた。

この展覧会を通じ、ヴァチカン美術館側と、学術的にも展示保存技術の点でも大きな信頼関係を築くことができたことは幸いであった。この点は今後にとっての大きな収穫となった。

【見直し又は改善を要する点】

ヴァチカン美術館古典古代部の協力で企画・実現した本展は、ルネサンス以降西洋文化に大きな影響を与えたローマの胸像形式が生成するまでの道筋を「第1章 肖像の誕生」、肖像のもつ様々な意味や機能を「第2章 肖像とアイデンティティ」「第3章 特徴的な髪型をした女性の肖像：古代の装い」「第4章 肖像と永遠」、私的な肖像と帝政期の皇帝の肖像がもつ意味上の決定的な違いを「第5章 帝国の象徴」、そしてキリスト教文化の中での古典的肖像形式の推戴と図像化の始まり「第6章 古代肖像の終焉」という6部構成で、一千年に亘る時代の流れを凝縮して展示した。作品数は彫刻46体の他、ガラス器、ブロンズ製日用品等、総数85点と、決して多くはなかった。意図的にヘレニズム彫刻を除外した点などから、多くの観客から厳しいご意見を頂いたことは、素直に反省すべき点として真摯に受け止めている。

「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」(自主企画展)

方 針

本展覧会は、以下の4点を目的として行われた。

- 1) 東西ドイツの統一以降に行われた教会美術に関する調査の最新の成果を紹介する。
- 2) これまでほとんど紹介されることのなかった中世の金工美術を取り上げ、その美術的な特質や意味を探る。
- 3) 教会美術として典礼に組み込まれた聖杯の意味と機能を紹介する。
- 4) 中世美術の近世から現代にいたる受容史、とりわけ宗教改革以降どのように中世の典礼具が意味付けられたかを探る。

上記のような目的に沿って、本展では出品作品を「典礼と金工美術」「金細工師と金工技法」「聖杯の形体の美術史的変遷」「聖杯の図像学」「宗教改革と聖杯」の5つのセクションに振り分け、多面的なアプローチを試みた。

実 績

| | |
|-----------------|---|
| 1. 開催期間 | 平成16年6月29日(火)～8月15日(日)(43日間) |
| 2. 会 場 | 国立西洋美術館企画展示館 地下2階 |
| 3. 主 催 | 国立西洋美術館/ザクセン・プロテスタント教会/ザクセン・プロテスタント教会美術文化財団 /(財)西洋美術振興財団 |
| 名誉後援 | ドイツ連邦議会議長 |
| 後 援 | 文化庁/ザクセン=アンハルト州政府/ドイツ連邦共和国外務省/ドイツ連邦共和国大使館 /東京ドイツ文化センター/日本福音ルーテル教会/カトリック中央協議会 |
| 助 成 | (財)東芝国際交流財団/(財)アサヒビール芸術文化財団 |
| 協 力 | 日本航空/日本通運 |
| 4. 出品点数 | 77件(典礼具63+版画14) |
| 5. 入館者数 | 37,329人(目標入場者数20,000人) |
| 6. 入場料金 | 当日券 一般850(600)円、大学生450(250)円、高校生250(100)円、小中学生無料 割引券 一般800円、大学生400円、高校生200円 前売券 一般700円、大学生350円、高校生150円 ()内は20名以上の団体割引料金、引率者は20人に対し1人の割合以内で無料 小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても入場無料 心身の障害者及び、その付添者は無料 |
| 7. 入場料収入 | 18,049,200円 |
| 8. 担当した研究員数 | 2人 |
| 9. 展覧会の内容 | 本展は、12世紀から16世紀初頭、すなわちロマネスク時代から後期ゴシック時代の金細工師が制作した典礼具63点を、聖杯(カリス)と聖皿(パテナ)を中心にご覧いただくとした企画である。 本展の貴重な金工作品は美術館ではなく、ドイツ東部のザクセン=アンハルト州を中心とする、プロテスタントの諸教会から出品されたもので、現在でも重要な聖餐式の時に用いられている。このことは、日本では初めての試みとなる中世の金工美術をテーマとする展覧会に、さらに重要な美術史・文化史的意味を加えるものとなった。 |
| 10. 講演会等 | 3回 参加人数310人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) |
| スライドトーク等 | 4回 参加人数270人(詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ) |
| 展覧会に関連する音楽プログラム | 1回 参加人数100人(詳細は「教育普及」展覧会に関連する音楽プログラム欄へ) |

11. 広報

新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、アドカードDUE、チラシ等による幅広い情報の発信と、台東区教育委員会を通じての台東区内小・中学校への展覧会情報、小・中学生観覧料金無料化のPR、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布、日本通運株式会社と連携協力した日通ホームページへの展覧会情報掲載、日通だより(社内報)への掲載、日通社内における前売券販売、ポスター、チラシ等の日通営業店店頭掲示等の広報を行った。また、本展では入場料の割引料金を設定し、インターネットホームページ(国立西洋美術館)へ割引引換券掲載を行うなどして積極的な広報活動を実施した。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|-------------------|-----------|----------|------------------------------|
| カトリック新聞 | 2004.5.20 | カトリック新聞 | |
| クリスチャントゥデイ | 2004.5.31 | クリスチャン新聞 | |
| 読売新聞 | 2004.6.5 | 読売新聞社 | (35面) |
| 毎日新聞(東京) | 2004.6.16 | 毎日新聞社 | 今週の1点 |
| The Asahi Shimbun | 2004.6.18 | 朝日新聞社 | International Herald Tribune |
| 産経新聞 | 2004.6.18 | 産経新聞社 | アートカレンダー |
| キリスト新聞 | 2004.6.19 | キリスト新聞社 | |
| クリスチャン新聞 | 2004.6.20 | クリスチャン新聞 | |
| 毎日新聞(東京) | 2004.6.23 | 毎日新聞社 | 美術館ガイド |
| 読売新聞 | 2004.6.23 | 読売新聞社 | 美術館・博物館情報 |
| 産経新聞(神奈川) | 2004.6.24 | 産経新聞社 | アートカレンダー |
| 東京新聞 | 2004.6.24 | 中日新聞東京本社 | 美術館・博物館 |
| 産経新聞(東京) | 2004.6.24 | 産経新聞社 | アートカレンダー、埼玉、静岡版他 |
| 日本経済新聞(東京) | 2004.6.26 | 日本経済新聞社 | 名古屋・札幌・大阪・北九州版も |
| 夕刊フジ | 2004.7.3 | 産経新聞社 | 稲川淳二氏 怪談ライブ記事の中に |
| キリスト新聞(週刊) | 2004.7.24 | キリスト新聞社 | |

【雑誌】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|-----------|----------|----------|-------------|
| Weekly ぴあ | 2004.6.7 | ぴあ | 美術館スケジュール |
| 芸術新潮 | 7月号 | 新潮社 | |
| 日系マスタース | 7月号 | 日経BP社 | |
| るるぶじゃぱん | 7月号 | JTB出版事業局 | |
| 週刊新潮 | 7月8日号 | 新潮社 | vol.62 美の森へ |
| 婦人公論 | 7月22日号 | 中央公論新社 | カルチャーセクション |
| デザインの現場 | 8月号 | 美術出版社 | |
| 旅行読売 | 10月号 | | 2004.9.2 発売 |

【テレビ放送】

| 番組名 | 放送日 | 制作 | 備考 |
|--------|---------|--------|------------|
| 新日曜美術館 | 04.7/18 | NHK 総合 | アートシーンにて紹介 |
| ドイツ語会話 | 04.8/4 | NHK 教育 | |

13. アンケート調査

調査期間 (抽出アンケート調査)

平成16年8月5日～平成16年8月8日(4日間)

| | |
|----------|--|
| | (任意アンケート調査) 平成16年6月29日～平成16年8月15日(43日間) |
| 調査方法 | (抽出アンケート調査方法) 展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。 (任意アンケート調査方法) お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施した。 |
| アンケート回収数 | 878件(抽出300件、任意578件) |
| アンケート結果 | ・大変良い33.72%(296件)・良い42.82%(376件)・まあまあだった17.08%(150件) ・あまり良くなかった0.68%(6件)・良くなかった3.08%(27件)・無回答2.62%(23件) |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

「中世の宗教美術」あるいは「中世の金工美術」という主題は、いずれにせよ展覧会訪問者にとって全くなじみのないものである。さらに出品作品は、ほとんどが実用的な目的をもった器物であり、基本的な形態が同じで個性的な造形はむしろディテールに見られる小寸の聖杯であったため、展覧会の構成に際しては、作品そのものの美術的な説得力に頼るばかりの手法ではその意味を伝えることができない。そこで本展では、作品の教会美術の中に占める位置、制作の工芸的なプロセス、基本形体や細部装飾について、多くのパネルを通じ、テキストと写真図版をもって説明を施した。また金工美術に対する関心を喚起するために、聖杯や金工美術に関連した国立西洋美術館所蔵の版画も参考作品として展覧会構成の中に組み入れた。こうした取り組みの結果、本展では、展覧会としては異例なほどの数の(出品作品とほぼ同数)解説パネルが並ぶこととなった。この点については、訪問者の作品鑑賞に過剰な忍耐を要求することになるのではないかと危惧されたが、予想を大幅に上回る観客数とアンケートの結果からすれば、おおむね好評をもって迎えられたようである。これは、美術館訪問者の展覧会に対する期待が、単に作品を美術的に鑑賞するだけでなく、知的な好奇心を満たすことに向けられていることを意味すると考える。

展覧会カタログの制作に際しては、中世の教会金工美術に関する邦語文献がほとんど皆無であるため、美術史家のみならずカトリックおよびルーテル派の神学者、金工美術家の参加を仰ぎ、この分野に関する基礎文献となり得よう努めた結果、その専門性と構成に関しては、ドイツ側の主宰者や研究者からも高い評価を得た。

本展に関連して開催期間中に行われたレクチャー・コンサートは、中世典礼音楽の近世における変容と、金工作品としての金管楽器を主題とするものであった。演奏された宗教音楽は展覧会に出品された聖具と並んでキリスト教典礼を構成する不可欠の要素であり、出品作品がどのような雰囲気のもとに鑑賞され用いられたかを示す上で有益であった。また、中世芸術の近世における受容に際して、美術と音楽の分野で明瞭な並行現象が見られることを示した点でも興味深いものがあった。さらに言えば、こうした知的な興味を喚起する以外にも、通常のコンサートではほとんど演奏されることのない古楽は、多くの訪問者を惹き付けた。このコンサートは、神学の専門家に多くの協力を仰ぐことで、展覧会同様、有意義な学際的企画となった。

その他の取組みでは、お盆の休館日を臨時に開館したほか、広報活動の一環として株式会社読売旅行が主催する「聖杯 - 中世の金工美術」にちなんだ旅行ツアーへ企画協力を実施した。また、本展の盛り上げを図るべく、各大学へ協力を呼びかけ「聖杯展開催記念 ガーデンコンサート」を開催した。本コンサートは展覧会の広報企画としてだけでなく、大学との文化活動における連携の面においても、また、国立西洋美術館を訪れていた観覧者の方々にとっても大好評となるイベントとなった。

【見直し又は改善を要する点】

本展のドイツ側主宰者は美術館ではなく教会だったために、美術館では海外貸し出しを行うことが難しい作品の出品が可能となった反面、さまざまな制約が課せられた。とりわけ、ドイツ側での時間とスタッフの労力の問題から、カタログ図版をカラーではなく白黒にせざるを得なかったことは、致しかたの無いことであったとは言え、大変残念であった。この点に関しては、多くの展覧会訪問者からも指摘を受けている。また、出品

作品の性格からして展覧会の構成に際してはその宗教的な意味と機能、制作プロセスの基礎的な説明に多くの労力を割かざるを得なかったが、作品の美術的な意味について、さらに深い解説を加える可能性もあったのではないかと思われる。今後の検討課題としたい。

「マティス展」(共催展)

方 針

絵とはどのように生まれてくるものなのか、この決して簡単には答えることのできない問題とマティスは真剣に取り組んだ画家であるといってもいいかもしれない。絵とは、あらかじめ画家の頭や心のなかにあった構想(意図あるいは意識)が、単純に絵に翻訳されたものではない。画家と描かれる対象との対話、あるいは画家と作品との対話など、実際の作画という行為のなかで、ときに画家自身の意識をも超えて生まれてくるものである。描かれている最中に刻々とその表情を変えていく作品は、そのつど画家に問題を投げかけ、画家を試そうとするのだともいえる。このようなある種の葛藤のもとに生まれる作品は、最終的にたったひとつの帰結を持つものとは限らない。主題はさまざまに変奏され、いくつものヴァリエーションを生む可能性をはらんでいる。実際、マティスは、同じ主題をまったく異なる表現(より写実的であったりより抽象的であったり)によって表した作品を数多く残している。

またマティス自身、作品が生まれてくる過程(プロセス)にとりわけ大きな関心をはらっていた。制作の途上で変わっていく表現を写真に撮影して記録しておくだけでなく、1945年12月にパリのマーク画廊で開かれた個展では、その途中経過の写真と完成作を一緒に並べて展示さえしていた。

今回の展覧会は、このふたつの絡み合う側面、「ヴァリエーション」と「プロセス」という視点から、マティスの作品を解き明かすことを試みるものとした。同じ主題を異なる様式や技法で描き分けた作品や、制作途上を記録した写真とその完成作を展示するだけでなく、自らが制作する姿を主題とした作品、1943年に出版されたデッサン集『テーマとヴァリエーション』のオリジナル素描なども出品し、また、マティスが用いた様々な技法上の試みを示す作品によって、「ヴァリエーション」と「プロセス」の問題を多角的に捉え、マティスの作品をより深く見ることの面白さを理解していただくことを目的とした。

実 績

1. 開催期間 平成16年9月10日(金)～12月12日(日)(83日間)
2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階
3. 主 催 国立西洋美術館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
企画協力 ポンピドゥーセンター・国立近代美術館
後 援 外務省、文化庁、フランス大使館
特別協賛 清水建設
協 賛 JR東海、NTTドコモ、大正製薬、昭和シェル石油、大日本印刷
協 力 (社)全国服飾教育者連合会、日本航空、JR東日本、日本通運、西洋美術振興財団
4. 出品点数 152件
5. 入館者数 451,105人(目標入場者数302,000人)
6. 入場料金 当日券 一般1,300(950)円、大学生900(510)円、高校生800(450)円、小中学生無料
割引券 一般1,200円、大学生850円、高校生750円
前売券 一般1,100円、大学生800円、高校生700円
()内は20名以上の団体割引料金、引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料
心身の障害者及び、その付添者は無料
7. 入場料収入 121,425,460円
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容

アンリ・マティスは、20世紀を代表する画家としてその名を広く知られている。1905年の秋にパリで開催された展覧会(サロン・ドートンヌ)に、色鮮やかで大胆な表現による作品を出品し、大きな衝撃をもたらして以来、絵画表現の新たな可能性を開いた革新者として、その名声を高めていった。今回の展覧会は、ふたつの側面、「ヴァリエーション」と「プロセス」という視点から、マティスの作品を解き明かすことを試みるものである。同じ主題を異なる様式や技法で描き分けた作品や、制作途上を記録した写真とその完成作が展示されるだけでなく、

自らが制作する姿を主題とした作品、1943年に出版されたデッサン集『テーマとヴァリエーション』のオリジナル素描なども出品され、マティスが用いた様々な技法上の試みを示す作品によって、「ヴァリエーション」と「プロセス」の問題が多角的に捉えられるものとなった。

10. 講演会等

- 4回 参加人数491人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
- スライドトーク等
- 6回 参加人数648人（詳細は「教育普及」スライドトーク等欄へ）
- イヤホンガイドの実施
- 利用者数47,189人（詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ）

11. 広報

共催者と連携し、新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の発信と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布、インターネットホームページ（西美、読売新聞、NHKプロモーション）への割引引換券掲載、携帯電話を利用した割引引換券ダウンロードサービス、書店を通じての割引引換券の配布、台東区教育委員会を通じての台東区内小・中学校への展覧会情報、小・中学生観覧料金無料化のPRを実施した。また、第46回「教育・文化週間」（平成16年11月1日～7日）における関連行事として登録を受け、幅広い広報活動に努めた。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|---------------|------------|-------|---------------------------|
| 読売新聞 | 2003/12/12 | 読売新聞社 | 1面 |
| 読売新聞 | 2004/6/21 | 読売新聞社 | 14面 |
| 読売新聞 | 2004/9/1 | 読売新聞社 | 1面 |
| 読売新聞 | 2004/9/5 | 読売新聞社 | 18-19面 高階秀爾氏執筆 |
| 読売新聞 | 2004/9/8 | 読売新聞社 | シティライフ |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/9 | 読売新聞社 | マティス展から1 |
| 読売新聞 | 2004/9/10 | 読売新聞社 | 開会式(高円宮妃殿下) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/10 | 読売新聞社 | マティス展から2 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/11 | 読売新聞社 | マティス展から3 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/15 | 読売新聞社 | マティス展から4 |
| 読売新聞 | 2004/9/16 | 読売新聞社 | 特別内覧会(山本容子氏参加) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/16 | 読売新聞社 | マティス展から5 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/17 | 読売新聞社 | マティス展から6 |
| 読売新聞 | 2004/9/18 | 読売新聞社 | 2面・顔(クロード・デュティ氏) |
| DAYLY YOMIURI | 2004/9/18 | 読売新聞社 | |
| 読売新聞 | 2004/9/19 | 読売新聞社 | 33面・黛まどか氏鑑賞印象を俳句に詠む |
| 読売新聞 | 2004/9/22 | 読売新聞社 | 33面・芸術の秋は・・・ |
| 読売新聞 | 2004/9/23 | 読売新聞社 | 40面・NHK放送「画家マティスの世界」(試写室) |
| DAYLY YOMIURI | 2004/9/23 | 読売新聞社 | 18面 |
| 読売新聞 | 2004/9/25 | 読売新聞社 | 37面・河村文部科学大臣見学 |
| 読売ウィークリー | 2004/9/26 | 読売新聞社 | お茶の水女子大学大学院・石橋優子氏執筆 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/27 | 読売新聞社 | 17面 |
| 読売新聞 | 2004/9/28 | 読売新聞社 | Felice 9月号 芸術の秋 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/28 | 読売新聞社 | 22面・マティス展この1点「パイナップル」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/9/29 | 読売新聞社 | 20面・広告のページ |

| | | | |
|----------------|------------|---------------------|---------------------------------|
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/1 | 読売新聞社 | 22面・マティス展この1点「ルーマニアのブラウス」 |
| 読売ウィークリー | 2004/10/3 | 読売新聞社 | お茶の水女子大学大学院・石橋優子氏執筆 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/4 | 読売新聞社 | 18面・マティス展この1点「ブルーノード」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/5 | 読売新聞社 | 14面・マティス展この1点「ポリネシア・海」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/6 | 読売新聞社 | マティス展この1点「赤いキュロットの…」、10面・シティライフ |
| 読売新聞 | 2004/10/9 | 読売新聞社 | 37面・十万人突破 |
| 読売ウィークリー | 2004/10/10 | 読売新聞社 | お茶の水女子大学大学院・石橋優子氏執筆 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/12 | 読売新聞社 | 1面・マティス展この1点「エウロペの掠奪」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/13 | 読売新聞社 | 4面・高階秀爾氏執筆「マティス展に寄せて」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/14 | 読売新聞社 | マティス展この1点「白とバラ色の頭部」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/15 | 読売新聞社 | マティス展この1点「ジャズ8 イカロス」 |
| 読売ウィークリー | 2004/10/17 | 読売新聞社 | お茶の水女子大学大学院・石橋優子氏執筆 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/18 | 読売新聞社 | マティス展この1点「白い服を着た…」 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/19 | 読売新聞社 | 14面・松任谷由実・安西水丸さんと巡る |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/21 | 読売新聞社 | 16面・KODOMO 伝える |
| 読売新聞 | 2004/10/24 | 読売新聞社 | NHK 放送「新日曜美術館」(試写室) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/10/27 | 読売新聞社 | 10面・シティライフ |
| 読売新聞 | 2004/10/30 | 読売新聞社 | 37面・二十万人突破 |
| 読売新聞 | 2004/10/31 | 読売新聞社 | LIFESTYLE |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/8 | 読売新聞社 | 14面・私の好きなマティス(安藤優子) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/9 | 読売新聞社 | 14面・私の好きなマティス(渡辺淳一) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/10 | 読売新聞社 | 14面・私の好きなマティス(山本容子)、8面・シティライフ |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/12 | 読売新聞社 | 私の好きなマティス(中村吉右衛門) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/13 | 読売新聞社 | 私の好きなマティス(森英恵) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/17 | 読売新聞社 | 10面・シティライフ |
| 読売新聞 | 2004/11/23 | 読売新聞社 | 33面・三十万人突破 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/24 | 読売新聞社 | 22面・常陸宮妃華子様ご来館 8面・シティライフ |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/28 | 読売新聞社 | 私の美術館のマティス |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/11/30 | 読売新聞社 | 私の美術館のマティス |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/12/1 | 読売新聞社 | 私の美術館のマティス |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/12/3 | 読売新聞社 | 皇后陛下行啓 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/12/6 | 読売新聞社 | 14面・主任研究官 田中正之、ソムリエ田崎真也氏 |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/12/7 | 読売新聞社 | エンターテイメント 耳の渚(池辺晋一郎氏) |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/12/8 | 読売新聞社 | 37面・四十万人突破 10面・シティライフ |
| 読売新聞(夕刊) | 2004/12/13 | 読売新聞社 | 22面・閉幕記事 |
| ジャパンタイムズウィークリー | 2004/8/21 | 朝日新聞社 | July/24,2004 19面 |
| 聖教新聞 | 2004/8/30 | 聖教新聞社 | 情報プラザ |
| インターナショナルプレス | 2004/9/4 | (株)インターナショナルプレスジャパン | |
| 日本経済新聞(夕刊) | 2004/9/6 | 日本経済新聞社 | 10面・アート・カルチャー |
| 信濃毎日新聞 | 2004/9/9 | 信濃毎日新聞社 | 東京ガイド |
| 毎日新聞(夕刊) | 2004/9/16 | 毎日新聞社 | 7面・現代アート考 |

| | | | |
|----------|------------|----------|-----------------------|
| ヘラルド朝日 | 2004/9/17 | 朝日新聞社 | Page・34 |
| 産経新聞 | 2004/9/25 | 産経新聞社 | 5面・えーびす |
| 毎日小学生新聞 | 2004/9/27 | 毎日新聞社 | プレゼントコーナー |
| 公明新聞 | 2004/9/28 | 公明新聞社 | 美術・マチス展とピカソ展 |
| 公明新聞 | 2004/10/3 | 公明新聞社 | 家庭・ギャラリートーク |
| 朝日新聞(夕刊) | 2004/10/7 | 朝日新聞社 | 12面・高階秀爾氏 執筆「マチスとピカソ」 |
| 東京新聞 | 2004/10/9 | 東京新聞社 | 25面・美術 |
| 日本経済新聞 | 2004/10/18 | 日本経済新聞社 | TOWN・名作の横顔 |
| 産経新聞 | 2004/10/19 | 産経新聞社 | マチスとピカソ |
| 朝日新聞 | 2004/10/21 | 朝日新聞社 | 11面 |
| 朝日新聞 | 2004/10/29 | 朝日マリオン21 | 23面 |
| 東京新聞 | 2004/11/25 | 東京新聞社 | 首都圏情報 |

【雑誌】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|----------------------|------------|----------------|----------------------|
| 美術の窓 | 2004/7/20 | 生活の友社 | 8月号 P39 |
| 美術手帖 | 2004/8/17 | 美術出版社 | 9月号 P85 |
| 芸術新潮 | 2004/8/20 | 新潮社 | P119 |
| アート・トップ | 2004/8/20 | (株)芸術新潮社 | 119号 P86 |
| 一枚の繪 | 2004/8/21 | 一枚の繪(株) | 9月号 P96 art column |
| ぴあ map ミュージアム 2004-5 | 2004/8/25 | ぴあ(株) | P9 |
| TITLE | 2004/8/26 | 文芸春秋 | P68 TITLE SQUARE |
| 月刊ボザール | 2004/8/27 | (株)サロン・デ・ボザール | P114 招待券プレゼント |
| 月刊ギャラリー | 2004/9/1 | ギャラリーステーション | 9月号 |
| ESQUIRE 別冊 Luca | 2004/9/10 | エスクァイヤマガジンジャパン | 7号 アメリカ・アレナスの・・・ |
| 新美術新聞 | 2004/9/11 | (株)美術年鑑社 | 9/11号 P8 |
| 美術手帖 | 2004/9/17 | 美術出版社 | 10月号 特集・再発見アンリ・マチス |
| 日経デザイン | 2004/9/24 | 日経BP社 | 10月号 展覧会&コンペ |
| 芸術新潮 | 2004/9/25 | 新潮社 | 10月号 予告 |
| RAFFAELLO | 2004/10/5 | (有)アワーズ | 10月号 P5 |
| アートマインド | 2004/10/10 | (株)ジャパンアート社 | 136号 P173 |
| 新美術新聞 | 2004/10/11 | (株)美術年鑑社 | 10/11号 クロード・デュテュイ氏執筆 |
| ぴあムックアートワンダーランド | 2004/10/25 | ぴあ(株) | |
| Art Journal | 2004/10/27 | (株)アートジャーナル社 | p217 |
| 美術の杜 | 2004/10/30 | 美術の杜出版社 | |
| ぴあ | 2004/12/10 | ぴあ(株) | P50 - 51 |
| いきいき | 2004/8/10 | ユーリーグ(株) | 9月号 招待券プレゼント |
| 文部科学時報 | 2004/8/10 | ぎょうせい | 8月号 P83 主任研究官 田中正之執筆 |
| 文化庁月報 | 2004/8/25 | ぎょうせい | 8月号 P44 主任研究官 田中正之執筆 |
| Memo 男の部屋 | 2004/8/26 | ワールドフォトプレス | 8/26号 CULTURE |

| | | | |
|--------------|------------|-----------------------|---------------------------|
| NYRON JAPAN | 2004/8/28 | カエルム(有) | 10月号 |
| 毎日が発見 | 2004/8/28 | SS コミュニケーションズ | 9月号 クリッククリック ART |
| 装苑 | 2004/8/28 | 文化学園 | 10月号 ART |
| 東京 Walker | 2004/8/31 | (株)角川書店 | 9 / 7号 NEWS FLASH |
| 家庭画報 | 2004/9/1 | 世界文化社 | 10月号 ART EXHIBITION |
| STORY | 2004/9/1 | (株)光文社 | 10月号 P157 |
| DOMANI | 2004/9/1 | 小学館 | 10月号 |
| ステラ | 2004/9/4 | ステラ編集部 | 9 / 10号 P67 イベント情報 |
| FIGARO JAPAN | 2004/9/5 | 阪急コミュニケーションズ | 10月号 ART |
| VERY | 2004/9/7 | (株)光文社 | 10月号 |
| Precious | 2004/9/7 | 小学館 | 10月号 ART |
| サイン&ディスプレイ | 2004/9/10 | マスコミ文化協会 | 9月号 |
| クロワッサン | 2004/9/10 | マガジンハウス | 9 / 17号 黛まどか氏執筆 |
| ウィークリーぴあ | 2004/9/13 | ぴあ(株) | 9 / 20号 P24 - 30 ピカソとマティス |
| Cabi ネット | 2004/9/15 | 時事画報社 | 9 / 15号 P46 EVENT |
| セブンシーズ | 2004/9/20 | (株)セブンシーズ アンドカンパニー | 10月号 EVENTS 11 |
| 週刊新潮 | 2004/9/22 | 新潮社 | 9 / 29号 美の森へ |
| テレパルエフ | 2004/9/24 | (株)小学館 | 11月号 P27 TV Forwards Art |
| ゆうゆう | 2004/10/1 | 主婦の友社 | 11月号 |
| 公明グラフ | 2004/10/1 | 公明新聞 | 10月号 P63 美術館で会いましょう |
| ミセス | 2004/10/7 | 文化出版局 | 11月号 P305 |
| サライ | 2004/10/21 | 小学館 | 21号 |
| ハーパース・バザー日本版 | 2004/11/1 | HB JAPAN | 12月号 Magic in color |
| 月刊ブレーン | 2004/12/1 | (株)宣伝会議 | 1月号 ART |

【広報誌等】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|---------------|------------|---------------------|-------------------|
| 多摩川新聞 | 2004/7/25 | 多摩川新聞社 | 887号 |
| 栃木よみうり | 2004/7/30 | (株)栃木よみうり | 7 / 30号 |
| 月刊武州路 | 2004/8/20 | (株)富士フォルム | 9月号 |
| THE NEW KEY | 2004/8/28 | (株)団地通信 | 8 / 28号 |
| ファン 烏山版 | 2004/9/1 | オフィス ファン | 9 / 1号 |
| ポルトパトロール | 2004/9/1 | 銀座タイムス社 | 9 / 1号 |
| うえの | 2004/9/1 | 上野のれん会 | 9月号 主任研究官 田中正之執筆 |
| 長野市民新聞 | 2004/9/2 | 長野市民新聞社 | 9 / 2号 行ってみましょ |
| よみうり県南ニュース | 2004/9/3 | ((有))よみうり県南 ニュース | 9 / 3号 |
| 月刊新松戸 | 2004/9/15 | (有)ファクトリィ | 10月号 P257 |
| Do classic | 2004/9/20 | (株)ショパン | 10月号 P78 - 9 |
| 都北新聞 | 2004/10/30 | (有)都北新聞社 | 1715号 |
| 保健銀行日報 | 2004/8/20 | (株)保健銀行日報 社 | 8 / 20号 |
| SANSAN | 2004/9/1 | (有)ガム出版 | Selection Present |
| Travel & Life | 2004/9/1 | JTB 印刷(株) | P54 |

| | | | |
|-----------------|------------|------------------|----------------------|
| アワビ | 2004/9/5 | ぴあ(株) | 9月号 |
| 電波タイムズ | 2004/9/15 | 電波タイムズ社 | 4952号 |
| サロンオーナー | 2004/9/15 | 理美容教育出版(株) | 9月号 P84 - 5 |
| ザ・ファミリー | 2004/9/17 | (株)ファミリー | 9 / 17号 |
| 多摩ら・び | 2004/9/15 | 多摩ライフ倶楽部 | 29号 多摩カレッジ |
| 東京福祉会だより | 2004/9/20 | 社会福祉法人 東京福祉会 | 41号 |
| 会議所ニュース | 2004/9/21 | 日本商工会議所 | 2175号 |
| メディカルQOL | 2004/9/25 | (株)マネージド・ケア・ジャパン | 10月号 |
| 月刊ライト | 2004/9/28 | 保健銀行日報社 | 10月号 P16 - 7 |
| IKOI | 2004/9/29 | IKOI Verlag | 10月号 |
| ハヤシ画廊 | 2004/10/1 | | 105号 |
| 早稲田大学新聞 | 2004/10/12 | 早稲田大学新聞会 | 2623号 2面 |
| 民主青年新聞 | 2004/11/1 | 民主青年新聞 | 11 / 8号 美術評論家武位利史氏執筆 |
| スタッフアドバイザー | 2004/11/1 | (株)税務研究会 | 11月号 P122 - 3 |
| 瓜生通信 | 2004/11/30 | 京都造形芸術大学 | 32号 展評 |
| 東京上野ローターリークラブ週報 | 2004/10/4 | 東京上野ローターリークラブ | 主任研究官 寺島洋子 解説 |

【テレビ・ラジオ等】

| 番組名等 | 放送日 | 制作 | 備考 |
|----------------|-----------------|-----------------------|----|
| コアラテレビ | 2004/8/2~8 | (株)コアラテレビ | |
| TCT 本舗 | 2004/8/25~9/10 | (株)城北ニューメディア台東ケーブルテレビ | |
| Go!Go! タウンテレビ | 2004/9/11~9/17 | タウンテレビ南横浜 | |
| 新日曜美術館 | 2004/9/23 | NHK | |
| WEEKDAY ホットライン | 2004/10/6~10/13 | 小田急ケーブルテレビジョン | |
| いっとろっけん | 2004/10/ | NHK | |
| 新日曜美術館 | 2004/11/14 | NHK | |
| イセハラエフエム放送 | 2004/7/26~8/10 | イセハラエフエム放送 | |
| フラワーラジオ | 2004/8/20~ | (株)フラワーコミュニティー放送 | |
| from TOKYO | 2004/8/2~8 | バンブーシュート | |
| 自遊時間 | 2004/8/25~9/10 | (株)エフエム世田谷 | |

【ネット関連(web)】

| 掲載 | 掲載日 | 制作 | 備考 |
|---------------|----------------|------------------|----|
| 台東区タウン | 2004/7/16~9/15 | (株)クレイフィッシュ | |
| インターネットミュージアム | 2004/7/30~ | インターネットミュージアム事務局 | |

| | | | |
|--------------------|-----------------|----------------|--|
| 美術館.Com | 2004/8/15～ | 日本スタジオ | |
| コミュニティサイト STAGE | 2004/8/16～ | シニアコミュニケーション | |
| アートアクセス | 2004/8/27～ | (株)芸術新聞社 | |
| アートネット | 2004/8/30～ | フジテレビ | |
| ジャパンデザインネット | 2004/10/25 ～ | ジャパンデザインネット事務局 | |
| FUFU スペシャル UENOism | 2004/11/19 ～ | (株)乃村工藝社 | |

13. アンケート調査

調査期間 (抽出アンケート調査)

平成16年9月23日～平成16年9月26日(4日間)

(任意アンケート調査)

平成16年9月10日(金)～12月12日(日)(53日間)

調査方法 (抽出アンケート調査方法)

展覧会鑑賞後のお客様にアンケートの趣旨を説明し、会場内に設けたアンケートコーナーに誘導して回答のご協力をいただいた。アンケート調査の協力者には、館内喫茶店のドリンク無料サービス券や次回展覧会の割引券などを進呈して、何度も美術館に足を運んでもらえるよう工夫に努めた。

(任意アンケート調査方法)

お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施した。

アンケート回収数 2,552件(抽出400件、任意2,152件)

アンケート結果

・大変良い50.32%(1284件)・良い33.5%(855件)・まあまあだった9.99%(255件)

・あまり良くなかった0.04%(1件)・良くなかった1.53%(39件)・無回答4.62%(118件)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

今回のマティス展は、単に年代順に作品を並べるような回顧展の形式をとらず、明確なコンセプト(「ヴァリエーション」と「プロセス」)を設定して構成したものであった。そのため、国内、国外を問わず企画内容に関しては高い評価を受けた。また、企画内容を伝える会場パネル、ビデオ上映、資料写真等も多くのお観覧者からわかりやすいと評判であった。明瞭なコンセプトを提示した展覧会の重要性が確認でき、またそれを多くの人々が望んでいることを認識するよい機会となった。

その他の取組みでは、平成16年9月21日及び11月22日を臨時に開館し、祝日を含む連休の開館日を増やすことで入館者の利便性の向上に努めたほか、広報活動の一環としてマティス展に関連して、上野公園に隣接する台東区池之端のホテル、ソフィテル東京において「マティスフェア」の開催、フランス政府観光局、阪急交通社が企画するマティスに関連したモニター旅行キャンペーン、(株)ジェイティービーが主催するマティスに関連したツアー旅行企画への協力及び、FOODEAウイークエンド・ソサエティ事業部が企画するセミナー会場において当館研究員によるスライドトークを実施した。また、企業との特別内覧会では、マガジンハウス「BOAO」創刊記念 展覧会鑑賞会「マティスの夕べ」(主催：読売新聞社)を実施している。

【見直し又は改善を要する点】

予想以上の観覧者が来場したため、展示を含め混雑対策に対する苦情が少なからずあった。しかし、入場制限は的確に行っており、また西美の会場の広さを拡張できない限り対策も難しい。臨時開館の実施や、有効期限付きの無料観覧券を発行するなどして観覧者の分散を図り、全体の混雑の緩和に努力しているところではあるが、今後さらなる検討が必要とされる。

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(共催展)

方 針

本展は、2003年度に購入・収蔵したばかりのラ・トゥールの作品《聖トマス》を広く公開する傍ら、この17世紀フランスが生んだ特異な美の世界を総合的に展覧しようという企画である。

本来、今に残る真作の数が40点余、というきわめて展覧会開催が難しい作家であるが、フランスをはじめとする世界各地の美術館の協力によって、その半数にのぼる20点あまりのオリジナル作品を集めることができた。これらに貴重な工房作や模作を加え、全30余点で構成される、我が国初のラ・トゥール展である。国際的規模の展覧会に相応しく、ラ・トゥールの研究者として名高いジャン＝ピエール・キュザン元ルーヴル美術館絵画部長を共同コミッショナーに迎え、学術的な展覧会構成を試みている。それと同時に、一般に周知されているとは言えないこの画家により親しんでもらうために、会場のマルチメディアをはじめ、同時代の古楽器によるコンサートの開催など、さまざまな催しを実施する。

実 績

1. 開催期間 平成17年3月8日(火)～5月29日(日)(73日間)
(うち平成16年度21日間)
2. 会 場 国立西洋美術館企画展示館 地下2～3階
3. 主 催 国立西洋美術館、読売新聞社
後 援 文化庁、フランス大使館
協 力 日本航空、西洋美術振興財団
マルチメディア協力 コーデックスイメージズインターナショナル、クインランド、京都市立芸術大学、三菱電機
4. 出品点数 34件
5. 入館者数 58,521人(目標入場者数100,000人(うち平成16年度中は36,000人))
6. 入場料金 当日券 一般1,100(800)円、大学生750(410)円、高校生650(350)円、小中学生無料
割引券 一般1,000円、大学生700円、高校生600円
前売券 一般 900円、大学生650円、高校生550円
()内は20名以上の団体割引料金、引率者は20人に対し1人の割合以内で無料
小中学校の教育活動としての観覧の場合は、引率の教員についても無料
心身の障害者及び、その付添者は無料
7. 入場料収入 16,684,530円
8. 担当した研究員数 2人
9. 展覧会の内容
ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの現在まで残る真作の数が40点余、その作品数の少なさと重要性から、借り出せる作品はおのずと限定されてしまう。しかし、本展ではその全真筆のほぼ半数と、若干の失われた原作の模作・関連作を含めた極めて貴重な作品群が東京に顔を揃えることとなり、日本で初の、そしておそらくは相当な長い将来に渡って再び見ることはないであろうラ・トゥールの展覧会を実現することができた。
10. 講演会等(会期中に7回開催予定、うち平成16年度は2回)
2回 参加人数320人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
イヤホンガイドの実施
利用者数7,793人(詳細は「教育普及」イヤホンガイドの実施欄へ)
11. 広報
共催者と連携し、新聞、雑誌、交通広告、インターネットホームページ、DM、チラシ等による幅広い情報の発信と、上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」を通じたポスター掲示、チラシの配布、インターネットホームページ(西美、読売新聞)への割引引換券掲載、書店を通じての割引引換券の配布、台東区教育委員会を通じての台東区内小・中学校への展覧会情報、小・中学生観覧料金無料化のPRを実施し、幅広い広報活動

に努めており、現在も継続中である。

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

【新聞】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|----------|-----------|---------|-------------------|
| 産経新聞 | 2004/12/5 | 産経新聞社 | 26面 |
| 読売新聞 | 2004/12/8 | 読売新聞社 | 1面 |
| 読売新聞 | 2005/1/1 | 読売新聞社 | 4-5面 美の再発見 高橋明也執筆 |
| 読売新聞 | 2005/1/18 | 読売新聞社 | 37面 |
| 読売新聞 | 2005/1/26 | 読売新聞社 | 18面 |
| 読売新聞 | 2005/1/30 | 読売新聞社 | 生活ノオト LIFE STYLE |
| 日経新聞(朝刊) | 2005/2/19 | 日本経済新聞社 | 42面 |
| 日経新聞(夕刊) | 2005/2/28 | 日本経済新聞社 | 16面 |
| 聖教新聞 | 2005/2/28 | 聖教新聞社 | 7面 |
| 読売新聞 | 2005/3/1 | 読売新聞社 | 1面 |
| 読売新聞 | 2005/3/2 | 読売新聞社 | 30面 |
| 読売新聞 | 2005/3/8 | 読売新聞社 | 37面 |
| 読売新聞 | 2005/3/9 | 読売新聞社 | 1面 |
| 読売新聞(夕刊) | 2005/3/9 | 読売新聞社 | 1面・ラ・トゥール展から2 |
| 中日新聞 | 2005/3/10 | 中日新聞社 | 週末ガイド |
| 読売新聞(夕刊) | 2005/3/10 | 読売新聞社 | 1面・ラ・トゥール展から3 |
| 読売新聞(夕刊) | 2005/3/11 | 読売新聞社 | 1面・ラ・トゥール展から4 |
| 読売新聞(夕刊) | 2005/3/15 | 読売新聞社 | 4面 |
| 読売新聞(夕刊) | 2005/3/23 | 読売新聞社 | 12面 |
| 東京新聞 | 2005/3/24 | 東京新聞社 | 26面 |
| しんぶん 赤旗 | 2005/3/25 | | |
| 読売新聞 | 2005/3/28 | 読売新聞社 | 29面 どれどれどーれ |
| 読売新聞 | 2005/3/30 | 読売新聞社 | 14面 シティライフ |

【雑誌】

| 誌名 | 掲載日 | 発行 | 備考 |
|------------------------|------------|------------------|--------------------------------|
| Bon Voyage | | Air France Japon | 2004夏号 Mai Juin Juillet P38-45 |
| 芸術新潮 | 2004/7/1 | 新潮社 | 7月号 P123 |
| 月刊新松戸 | | (有)ファクトリィ | 2004年12月号 ミュージウム・クリスマス案内 |
| ザ・ファミリー | 2004/12/10 | (株)ファミリー | ミュージウムニュース ミュージウム・クリスマス案内 |
| 週刊新潮 | | 新潮社 | 1月13日号 P42 |
| ネットワークあさひ | 2005/2/1 | | 4面(荒川・台東配布) |
| アトレ駅パラ | 2005/2/1 | アトレ上野 | |
| 文化庁月報 | 2005/2/1 | ぎょうせい | P44 |
| Sign & Displays | 2005/2/10 | マスコミ文化協会 | |
| 美術の窓 | 2005/2/20 | 生活の友社 | 2月号 |
| 京成ライン | 2005/2/25 | 京成エージェンシー | P7 |
| THE BVLINGTON MAGAGINE | 2005/3/1 | | |
| Weekly Matsuzakaya | 2005/3/1 | | |

| | | | |
|----------------|-----------|--------------|-------------------|
| 協同組合通信 | 2005/3/3 | 協同組合通信社 | 雑誌・他 |
| 東京上野ロータリークラブ週報 | 2005/3/14 | 東京上野ロータリークラブ | 大谷公美氏執筆 |
| 文教速報 | 2005/3/16 | 官庁通信社 | P 8 開会式 |
| 文教速報 | 2005/3/18 | 官庁通信社 | P 15 遠山元文部科学大臣が鑑賞 |
| Visita 東京 2005 | 2005/4/1 | JTBパブリッシング | P 132 |
| 現代押花 | 2005/4/1 | 財団法人中山文甫会館 | P 52 - 53 |
| 春びあ 首都圏版 | 2005/4/20 | 株式会社ぴあ | P 101 |

13 . アンケート調査 平成17年度に実施

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

展覧会の自己点検評価については、平成17年度に行う。

【見直し又は改善を要する点】

(2) 貸与・特別観覧の状況

中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

実績

| | | |
|---------------|-----|------|
| 1. 貸与・特別観覧の件数 | | |
| 貸与 | 5件 | 6点 |
| 特別観覧 | 66件 | 179点 |
| 2. その他 | | |
| 寄託作品の貸与件数 | 1件 | 1点 |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度より作品の貸与については館内でのプロセスを見直し、館の管理・事業運営の重要事項について審議する企画会議での議題として扱うこととして、幅広く迅速な対応が可能となるように貸与規則及び制度を変更した。これにより、平成16年度の貸与件数は5件6点となり、貸与件数の増加につなげる成果を上げることができた。

(平成15年度貸与件数2件2点)

・作品貸出先(海外3件、国内2件)

ホノルル美術館(アメリカ合衆国)、ナント美術館(フランス)、G.ラ・トゥール美術館(フランス)

大原美術館(日本)、横浜美術館(日本)

・寄託作品貸出先(国内1件)

株式会社ホテルオークラ東京(日本)

【見直し又は改善を要する点】

貸し出しの依頼を受けた展覧会へは、企画の内容、輸送・展示に伴う様々な条件、作品保存上の諸条件、さらには当館の展示プログラムなどとの整合性を検討した上で可能な限りの協力を行うこととしている。しかし、当館への貸出依頼の大部分は当館の常設展示の中核を成す優品に対してであるため、貸出によってその数点の作品を常設展示の流れの中から欠いてしまうということは来館者へ常設展示のテーマを分かりやすく伝え、魅力ある質の高い展示を公開していくという趣旨から考慮すると難しい面もある。また、依頼は同じ作品へ集中して受ける場合も多い。その場合はいずれか一方にしか貸与をすることができず、全ての依頼に応えることは出来ないため対応に苦慮しているところでもある。

このような理由から、急に作品貸与の点数を増やしていくことは困難な状況ではあるが、今後も貸与の推進方策や、貸与・特別観覧料金の適正な取り扱いなどの改善点について引き続き検討を行い、公開の必要性和保存の調和を図りながら積極的に取り組んでいく必要がある。

なお、平成16年度は、当館の所蔵作品の規模からすると対応不可能な点数の要請が寄せられた例があり、貸与不可となった点数が多くなっている。

(参考：平成16年度貸与依頼状況)

依頼件数及び点数：15件 32点(絵18点、ゴ-ガン5点、ル-アル2点、ホ-ナル2点、クリガ-2点、他3点)

貸与可：6件 7点(寄託品含む)

貸与不可：6件 21点

申込の取下げ：3件 4点

*添付資料

貸与件数等の推移(事業実績統計表 p.8)

特別観覧件数の推移(事業実績統計表 p.9)

3. 調査研究

中期計画

- (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。
- <1> 収蔵品に関する調査研究
 - <2> 美術作品に関する調査研究
 - <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
 - <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
 - <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等
- (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。
- (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

実 績

1. 調査研究
- (1) 収蔵品の調査研究
- 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
 - 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
 - 美術館教育に関する調査研究
 - 美術館情報資料に関する調査研究
- (2) 保存・修理に関する調査研究
- 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究
 - 近代絵画材料の非破壊的調査法に関する研究
 - イタリア及びドイツにおける文化財保存環境整備と維持管理に関わる調査、絵画の非破壊調査法に関する調査・研究
- (3) 展覧会のための調査研究
- 18世紀における「古代の受容」に関する調査研究
 - 中世金工美術及び、中世美術に関する調査研究
 - マティスと20世紀絵画に関する調査研究
 - ジョルジュ・ド・ラ・トゥールと17世紀フランス絵画に関する調査研究
 - ドラクロワとロマン派石版画に関する調査研究
 - オランダ・マニエリスム版画に関する調査研究
 - マックス・クリンガー版画に関する調査研究
- (4) 科学研究費補助金による調査研究
- 「16 - 17世紀西欧における版画出版と古代の受容」の研究
2. 客員研究員等の招聘実績 3人(年度計画記載人数: 3人)
- 美術館教育に関する調査研究
 - 美術館教育研究家 佐藤 厚子
 - 展覧会に関する音楽プログラムの調査研究、企画等協力
 - 東京芸術大学演奏芸術センター助手 瀧井 敬子
 - 情報、広報事業等に関する英語表記の指導・助言
 - 日本美術研究家 マーサ・マクリントク

3. 大学院との連携協力

平成14年度より、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結し、平成16年度は2名の大学院生を受け入れた

併任教官 教授：学芸課長 幸福 輝

助教授：主任研究官 寺島 洋子

4. 調査研究費 予算額 47,908,000円 決算額 46,457,000円

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も個々の展覧会の準備に伴う研究調査と、各人の専門領域での研究において、充実した展覧会が実施されたと考える(展覧会カタログや研究紀要を参照)。

また、科学研究費補助金による調査研究(「16-17世紀西欧における版画出版と古代の受容」)、日本学術振興会特定国派遣(長期)研究者事業による在外研究(「ファイバー・オプティクス分光法およびイメージング分光法による非破壊分析法の、近代絵画材料調査への応用に関する研究」2004年6月18日~12月18日)、国立西洋美術館在外研究員制度による在外研究(「近代絵画材料の分析調査のための、光ファイバー利用赤外分光法による非破壊分析法の応用に関する基礎研究」2004年12月19日~2005年2月18日、「絵画材料の分析調査のための、ラマン分光法による非破壊・微破壊調査法の応用に関する研究」2005年2月19日~5月18日)の実施及び、外国人研究員の招聘、大学等における非常勤講師、他機関の運営委員会・作品購入委員会に参加するなどして、国内外の施設機関及び外部研究者と交流・意見交換を行い、積極的な研究成果の発表に努めた。

学会との連携の例としては、平成17年3月に国立西洋美術館を会場として美術史学会例会が開催されたこと、また、3月に当館で開催されたラ・トゥール関連の講演会が美術史学会の後援を受けていることなどである。

その他の取組みとして、外国人研究員の招聘や、美術史学会東支部3月例会、美術史学会東支部3月常任委員会、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力による、総会・研究発表大会を国立西洋美術館講堂において開催し、研究交流を積極的に推進した。

【見直し又は改善を要する点】

所蔵品の研究については中長期的な展望に立った計画の立案と、それに沿った実施が望ましいと考えるので、引き続き調査・研究体制の整備を図る必要がある。また、その研究成果の公開、学会等への積極的な発表を今後の課題としたい。

* 調査研究一覧(事業実績統計表 p.108)

4 . 教育普及

中期計画

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収藏品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収藏品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

方 針

美術館と美術作品への関心と興味を引き起こし、美術館の利用を促進すること、そして、美術作品をとおして、様々なものの見方や考え方を提供し、人生を豊かに生きるための感性と考える力を養うこと、さらに、幅広い年齢層、多様な知識、経験、関心をもつ様々な人々の自発的な学習を支援することを目標にしている。そのために、それぞれの対象や目的に合わせ、適切な手段・方法によって美術館や美術と接する機会を提供するよう務める。

実 績(総括表)

- (1) - 1 資料の収集及び公開
収集件数 3,185件(入力済データ件数)
公開場所
・企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

(西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィッシュ等の資料約146,870点を所蔵し公開している。)

利用者数 185人

貸出件数 280件 696点

・本館1階 資料コーナー

(一般の利用者向けに本館1階のフリーゾーンに設置し、展覧会カタログ、年報、要覧など、過去およそ10年分の当館の出版物と、全国美術館案内や美術事典などを公開している。)

本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが、利用者数の集計はしていない

(1) - 2 広報活動の状況

刊行物による広報活動 8種 17冊

『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』(年4回発行(春、夏、秋、冬))等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。

ホームページによる広報活動

ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内、オンライン蔵書目録(OPAC)などを常時掲載し、適時更新を行っている。海外からのアクセス向けには英語版のホームページを整備している。また、平成16年度はボランティア募集等の事業案内広報を掲載したほか、平成15年度まで郵送のみで受け付けていた教育プログラム等の参加申し込みについて、インターネットを利用してホームページ上で申し込みができるようにするなど、ホームページを利用した情報発信とインターネットを活用した利便性の向上を図り、来館者のニーズに対しては美術館の側から積極的に配信を行っていくよう努めている。

マスメディア等による広報活動

国立西洋美術館ニュース(年4回発行)、プレスリリース(展覧会ごとに、内容を紹介する資料(A4判、フルカラー3~8ページ)と記者内覧会(原則として展覧会開催日の前日に開催)の案内を作成。新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト関連・ライター等マスメディア関係約650件に配布。展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供に随時対応し、美術館事業の普及広報に努めている。

また、平成16年度は独立行政法人としての国立西洋美術館の新たなイメージを広く内外にアピールするためロゴマーク等を制定し、ホームページ、看板、広報印刷物、入館券、出版物、名刺、封筒、レターヘッド等広範囲に使用することで、美術館の広報活動の効果を高め、さらなる認知度の向上を目指した。

(1) - 3 デジタル化の状況

平成16年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 62件

(2) - 1 児童生徒・教員を対象とした事業

Fun with Collection'04「建築探検 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」 1回

Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

| | | |
|---------------------------|-----|--------|
| ワークショップ(創作・体験プログラム等) | 12回 | 494人 |
| スクール・ギャラリートーク | 28回 | 650人 |
| びじゅつーる | 6回 | 528人 |
| どうぶつびじゅつ「おもいでの風景」 | 8回 | 142人 |
| 先生(小・中・高等学校教員)のための鑑賞プログラム | 4回 | 646人 |
| 夏期教員研修会 | 2回 | 132人 |
| 教員研修会 | 1回 | 9人 |
| 団体訪問者(学校・団体)への解説 | 59校 | 2,156人 |

| | | |
|---|-----------------|------------------|
| (2) - 2 講演会等の事業 | | |
| 講演会 | 10回 | 1,251人 |
| スライドトーク等 | 15回 | 1,057人 |
| イヤホンガイド | 3回 | 67,655件 |
| 展覧会に関連する音楽プログラム | 1回 | 100人 |
| (3) - 1 研修の取組 | | |
| 他の機関が実施する研修等事業への協力を実施 | 174人 | |
| (3) - 2 大学等との連携 | | |
| 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力 | 2名 | |
| 国立西洋美術館インターンシップ | 11名(教育普及11名) | |
| (3) - 3 ボランティアの活用状況 | | |
| 平成16年6月3日(木)～11月4日(木)の間に12回のボランティア研修を実施し、2月12日(土)より体験型の申込制教育普及プログラム「どようびじゅつ」を開始した。また、小・中・高校生の団体を対象にした常設展示でのスクール・ギャラリートークを、平成17年度より開始するべく準備を行った。 | | |
| (4) 渉外活動 | | |
| 新聞社、団体・企業等と連携し、企画・運営・広報・輸送等の幅広い協力を得た。 | | |
| (5) 教育普及経費 | 予算額 93,464,000円 | 決算額 117,794,000円 |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度は、安定した既存の活動とともに、新たにボランティア・プログラムとファミリー・プログラムが始まった。ボランティアは6月から10月まで研修を行い、11月からはファミリー・プログラムの「びじゅつーる」の貸出を担当した。ボランティアの導入によって、インターンが開発・作成した鑑賞用教材「びじゅつーる」を、ファミリー・プログラムの一つとして恒常的に活用することが可能となった。インターンシップ、ボランティア、ファミリー・プログラムという3つの異なる活動がそれぞれの目的を果たしつつ、お互いに関連性を持って運営できるようになったことは今年度の活動の大きな成果である。

学校との連携については、例年通り「先生のための観賞プログラム」及び「教員研修」を行ったほか、新たに都立飛鳥高校の単位制授業への協力について検討を開始した。

また、ホームページを利用して所蔵作品の美術情報を普及していくにあたり、各美術館が個別に活動するのではなく法人全体の事業として協力し、総合目録とすることの可能性が検討された。

【見直し又は改善を要する点】

平成15年度同様に拡大しつつある教育普及事業は、それに伴う人員の十分な補強は行えない状況にある。膨らみ続ける事業全体を見直し、事業によっては隔年での実施を検討する必要がある。

*添付資料

教育普及件数の推移(事業実績統計表 p.15)

(1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況

中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

実績

1. 収集

件数 3,185件(入力済データ件数)

2. 公開

(1) 企画展示館事務棟地下1階

公開場所 研究資料センター

公開日数 96日

公開件数

・公開資料数 34,004件

公開資料数内訳：図書32,495冊

雑誌45,423冊(タイトル数は延べ1,483タイトル)

マイクロ資料26タイトル(マイクロフィッシュ68,772枚、マイクロフィルム180本)

・公開請求件数 280件 696点(請求による出納件数のみ、開架書架の利用件数は含まない)

(2) 本館1階

公開場所 資料コーナー(フリーゾーン)

公開日数 309日間

公開件数

・公開資料数 268件(94タイトル134件×2セット)

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も、購入による資料収集と共に、国内外美術館等との交換制度により積極的収集を図った。(交換件数国内224件、海外231件)

図書の公開について、作業導線や書架配置の大幅刷新により整理体制を改善し、公開冊数の増加に努めた。また整理業務の一部に外部委託も取り入れ、これらの措置により公開冊数は前年度実績を上回った。

外部の研究者・専門家の利用(閲覧)については、利用規則を一部改正し、利用者の便宜を図って外部利用の促進に努めた。これと前年度実績のOPACインターネット公開が相乗効果となり、利用者数は前年度を上回った。また、美術図書館横断検索(東京国立近代美術館等の美術図書館連絡会ALCの相互協力事業)参加への具体的検討を始め、インターネット上での試験的公開を実施した。

その他、関連機関誌への投稿や見学会開催等を通じて、我が国唯一の西洋美術の専門図書館として特化した情報サービスを提供する当研究資料センターの活動概要を紹介し、積極的に普及広報に努めた。

【見直し又は改善を要する点】

図書の整理冊数は平成15年度を上回ったが、多年にわたる未整理図書は依然として大量にあり、その処理は引き続き次年度の課題として持ち越した。また今後の整理冊数の増加を考慮すると、書架増設も必要である。

これらの図書以外にも、収蔵作品やアーティストに関する情報、当館に関する歴史資料(アーカイブズ)などの情報提供が美術図書館には期待されているが、人的・予算的制約から、このような国内外からのニーズに十分

に応えられる状況にない。まず資料管理体制の確立が課題である。

美術図書館横断検索は、本格的参加を次年度課題として持ち越したが、速やかにこれを実現し、国内外の調査研究活動への貢献に努めたい。

(1) - 2 広報活動の状況

中期計画

- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

実績

1. 刊行物による広報

- (1) 『国立西洋美術館年報 No. 38 (April 2003 - March 2004)』
発行年月日 平成17年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)
料金 無償
配布先 国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (2) 『国立西洋美術館研究紀要 No. 9』
発行年月日 平成17年3月31日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)
料金 無償
配布先 国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (3) 『平成16年国立西洋美術館要覧』
発行年月日 平成16年5月1日 1回発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)
料金 無償
配布先 博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (4) 展覧会に伴う図録
ア. 『聖杯 - 中世の金工美術』
イ. 『マティス展』
ウ. 『ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界』
エ. 『ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展テキスト版』(伊語)
オ. 『マティス展テキスト版』(仏語)
発行年月日 3回発行(発行回数3回)(年度計画発行回数の記載は無し)
料金 ア. 2,500円、イ. 2,600円、ウ. 2,200円、エ及びオ. 無償
配布先 会場内販売(上記ア~ウ)、国内外の博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等
- (5) 『ジュニアパスポート』
ア. 『聖杯 - 中世の金工美術』
イ. 『マティス展』
ウ. 『ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界』
発行年月日 3回発行(発行回数3回)(年度計画発行回数の記載は無し)
料金 無償
配布先 小中学生入場者、学校等教育機関
- (6) 『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』No. 19~No. 22
発行年月日 平成16年5月20日、8月20日、11月20日、平成17年2月20日 4回発行(発行回数4回)(年度計画記載発行回数4回)
料金 無償

配布先 会場内配布、修学旅行計画のための学校等

(7) 『独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館リーフレット』

発行年月日 平成16年12月1日 1回発行(発行回数1回)

料金 無償

配布先 博物館等施設、国立国会図書館、大学図書館、研究所等

(8) 『Rembrandt and Dutch History Painting in the 17th Century, The National Museum of Western Art, Tokyo 2004』

料金 無償

配布先 海外博物館等施設、研究所等

2. インターネットを用いた広報

(1) ホームページによる広報

常設展・企画展の展示解説及び作品図版の掲載、適時更新を実施している。

オンライン蔵書目録(OPAC)をホームページで公開し、インターネット上で所蔵図書データの検索を可能としている。

講演会等のイベント情報の充実を図っており、平成16年度からは今まで郵送のみで受け付けていた教育プログラム等の参加申し込みについて、インターネットを利用してホームページ上からも申し込みが可能となるように改良し利便性の向上を図った。

3. その他の広報

(1) マスメディア等の利用による広報

国立西洋美術館ニュース、展覧会情報を新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト関連・ライター等マスメディア関係約650件に配信

展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供には随時対応

(2) 近隣の地域、企業、教育関係機関との連携による広報

広報誌「うへの」(発行:上野のれん会)、「Weekly Matsuzakaya」(発行:上野松坂屋)、「Weeklyぴあ」(発行:ぴあ(株))、「平成16年度上野周辺散策マップ」(発行:JR東日本)、日本通運株式会社「日通ホームページ」、「日通だより(社内報)」、「中央公論新社PRページ」等に美術館情報を掲載
台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「art-Link上野-谷中2004」等に参加し広報活動を実施
台東区教育委員会、近隣の高等学校へ展覧会、美術館情報、小・中学校観覧料金の無料化及び高校生観覧料金の低廉化についての広報活動を実施

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も、各種刊行物及びホームページを利用した広報活動に取り組み、小・中学生向けの展示解説パンフレット『ジュニアパスポート』の無料配布を行うなど、大変有効であった。なお、『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』の発行にあたり(財)西洋美術振興財団より助成を得たほか、『ジュニアパスポート』の発行にあたっては各共催者より助成を得ることができた。

また、平成16年度は、独立行政法人としての国立西洋美術館の新たなイメージを広く内外にアピールするためロゴマーク等を新たに制定した。ホームページ、看板、広報印刷物、入館券、出版物、名刺、封筒、レターヘッド等広範囲にロゴマークを使用することで、美術館の広報活動の効果を高め、さらなる認知度の向上を目指している。

【見直し又は改善を要する点】

インターネットを活用した広報については、作品や美術館情報の極めて有効な発信手段として認識し、毎年拡充を図っているが、規模が大きくなるほど、校正等の情報精度の保持に関わる作業も増えていくため、維持が難しいもの

となる。

単純に規模を拡大するだけでなく、広報活動の目的と照らし合わせながら、利用者にとってより望ましいものとなるよう、今後も慎重に検討を続けていく必要がある。

(1) - 3 デジタル化の状況

中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

実績

1. 所蔵作品のデジタル化

| | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 平成16年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 | 62件 |
| 平成16年度未収蔵作品数 | 4,426件 |
| 平成16年度未データベース化、デジタル化作品数 | 4,426件 |
| 今後のデジタル化の対応 | 新規に取得した作品についてデジタル化、データベース化を予定 |

2. ホームページのアクセス件数 891,210件(平成12年度アクセス件数275,000件) (日本語トップページ 870,904件、英語トップページ 20,306件)

3. デジタル化した情報の公開

| | |
|---------------------|---------------------------|
| 国立西洋美術館HP等による公開件数 | 231件(デジタルギャラリー204件、HP27件) |
| 文化庁文化遺産オンライン公開件数 | 27件 |
| 独立行政法人国立美術館総合目録公開件数 | 464件 |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

館内フリーゾーンのデジタルギャラリーは、平成15年度同様のプログラムを継続して利用者に提供し、好評を得ている。

平成16年度は、収蔵作品情報のデジタル化推進の基盤である館内ネットワークの刷新を行い、近年の懸念事項であった障害を取り除いた。また、収蔵作品データベース再構築の第一段階として、絵画・彫刻・工芸データの再整備を行い、これを独立行政法人国立美術館総合目録にも活用した。これによりインターネット上で公開する作品点数が増加した。

ホームページでは、教育普及事業関連プログラムの申し込み受付をインターネット経由で新たに開始し、広く国民全体が当館サービスを利用できるよう、ホームページの積極的運用に努め、平成16年度も平成15年度実績を上回るホームページアクセス件数を得ることができた。今後も継続してホームページのコンテンツを工夫し活用を図りたい。

【見直し又は改善を要する点】

収蔵作品の情報については、現在、絵画・彫刻・工芸データと版画データとが個別に管理されている。平成16年度は前者の絵画・彫刻・工芸データの再整備を実施したが、これに続いて後者の版画データの再整備と両者の結合が平成17年度への持ち越しの課題となった。この課題への取り組みにより、情報公開サービスの拡大に努めたい。

(2) - 1 児童生徒を対象とした事業

中期計画

(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

実績

1. Fun with Collection 2004「建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」及び、本企画に関連する教育普及プログラム 13回

ア. 「建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」

(協力：西洋美術振興財団)

開催期間

平成16年6月29日(火)～9月5日(日)(61日間)(開催場所：本館、新館)

参加者数

Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず、常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。

担当した研究員数 6人

事業内容

国立西洋美術館の本館を設計したフランスの建築家ル・コルビュジエは、身体のサイズを利用したモデュロールという特別の定規や、それまでとは違う方法を使って新しい建築を考えた。そして、1959年にできた国立西洋美術館本館には、ル・コルビュジエの色々なアイディアが活かされている。今回のFun with Collectionでは、絵や彫刻ではなく、それらを展示している建物を主役としてル・コルビュジエの美術館を隅から隅まで探険し、建築の面白さをじっくり味わうことができるプログラムとなった。

イ. 創作・体験プログラム「カラダで感じる美術館：モデュロールで測るール」

講師＝鈴木明(建築家/神戸芸術工科大学教授)

開催期間

平成16年7月27日(火) 10:00～16:00

参加者数 19名

担当した研究員数 5人

事業内容

ル・コルビュジエは、人のカラダから建築を考えた。国立西洋美術館も、カラダを使った万能ものさし「モデュロール」で人のカラダにピッタリに作られている。本当かどうかを確かめ、それから、自分だけのカラダものさし「モデュロール」を作ってみるプログラム(対象＝小学校4年生以上)

ウ. 創作・体験プログラム「着せ替えドミノ：自分だけの美術館をつくろう」

講師＝T*0(タカマスヨシコ・おくやめぐみ)

開催期間 2日間

平成16年8月6日(金) 13:00～17:00 参加者数17名

平成16年8月7日(土) 13:00～17:00 参加者数17名

参加者数 34名

担当した研究員数 6人

事業内容

美術館には絵や彫刻があるが、高い所から、あるいは、動きながら眺めたりすると同じものも違って見えてくる。まずは、建物を回ってル・コルビュジエが工夫した美術館の「見る」仕掛けを体感する。その後、ペーパーモデルキットを使って参加者自身が大切にしているものを見せるための美術館を作ってみるプログラム（対象＝小学生とその家族（ファミリープログラム））

エ．創作・体験プログラム「頭でっかちフォトハット：かぶりもので創造・想像するセイビ」

講師＝T*O（タカマスヨシコ・おくやめぐみ）

開催期間

平成16年8月22日（日）10：00～17：00

参加者数 6名

担当した研究員数 6人

事業内容

国立西洋美術館の本館に見られるル・コルビュジエ建築の特徴を納めた写真の中から、気に入ったものを選んで大きな帽子的内側に張り込んでみる。穴を開けてかぶれば、そこはありそうでなかった国立西洋美術館に。目と頭で空間を体感してみるプログラム（対象＝高校生以上）

オ．ガイドツアー「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」

開催期間 6日間

・対象：高校生以上

7月11日（日）14:00～16:00 講師：藤木忠善（建築家／東京芸術大学名誉教授） 参加者数 15人

7月18日（日）14:00～16:00 講師：藤森照信（建築家／東京大学教授） 参加者数 20人

8月1日（日）14:00～16:00 講師：松隈 洋（京都工芸繊維大学助教授） 参加者数 24人

8月8日（日）14:00～16:00 講師：岡部憲明（建築家／神戸芸術工科大学教授） 参加者数 23人

・対象＝小学校4年生～中学生

8月3日（火）14:00～16:00 参加者数 16人

8月17日（火）14:00～16:00 参加者数 14人

参加者数 112名

担当した研究員数 9人

事業内容

ル・コルビュジエが設計した本館の魅力を、じっくり楽しむツアー。小・中学生を対象としたツアーと、建築の専門家と一緒にまわる大人向けのツアーを用意した。

カ．レクチャー「国立西洋美術館が建った頃」（対談）

藤木忠善（建築家／東京芸術大学名誉教授）、高階秀爾（大原美術館館長／元国立西洋美術館長）

開催期間

平成16年7月24日（土）14：00～15：30

参加者数 102名

担当した研究員数 7人

事業内容

「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」に関連し、建築の面

白さをじっくりと味わうためのプログラムを開催した。

キ．レクチャー「ル・コルビュジエと私」

安藤忠雄（建築家／東京大学名誉教授）

開催期間

平成16年8月21日（土）14：00～15：30

参加者数 221名

担当した研究員数 6人

事業内容

「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」に関連し、建築の面白さをじっくりと味わうためのプログラムを開催した。

ク．スクール・ギャラリートーク

実施回数 28回（小学校：10、中学校：13、高等学校：5）

開催期間

「Fun with Collection 2004 建築探険 - ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」会期中の火曜日～金曜日 9：30～15：00（ただし、7月20日、27日、8月3日、6日、17日を除く。）

実施日：6月30日、7月1日、6日、13日、15日、16日、28日、29日、8月3日、5日、6日、10日、11日、13日、18日、20日、24日、25日、26日、27日、9月3日

参加者数 650名（小学校：483、中学校：128、高等学校：39）

担当した研究員数 4人

事業内容

小・中・高等学校の団体を対象に、「Fun with Collection」の会期中に本館の建物と常設展のコレクションに関するトーク（およそ40分）を行った。

2．びじゅつーる 6回

開催期間

平成16年11月13日（土）10：00～17：00（1回目） 81人

平成16年11月27日（土）10：00～17：00（2回目） 154人

平成16年12月11日（土）10：00～17：00（3回目） 129人

平成16年12月25日（土）10：00～17：00（4回目） 55人

平成17年 1月 8日（土）10：00～17：00（5回目） 45人

平成17年 1月22日（土）10：00～17：00（6回目） 64人

参加者数 528名

担当した研究員数 3人

事業内容

6～10歳の子供と同伴の大人を対象に、常設展の作品鑑賞を助けるツール（道具）を予約・申し込み不要でその場で貸し出した（随時貸出。受付は16：00まで）。ファミリーで使用し、作品のことを何も知らなくても、大人も子どもと一緒に展示を楽しむことができるプログラムである。

（「びじゅつーる」＝常設展にある絵や彫刻を、いろいろな方法で楽しむために作られた鑑賞用教材。 ロダン・ツール 彫刻の動きに注目。人形にポーズをつけて彫刻をつくってみる。 モネ・ツール 描き方や材料に注目。カンヴァスや筆にさわったり、カードと絵を組み合わせるゲームをしたりする。 ドニ・ツール 色づかいや描き方に注目。カラフルな玉を画面において、点描のように絵をつくったりする。）

3. どようびじゅつ 「おもいで風景」 8回

開催期間

| | | |
|---------------|------------------|-----|
| 平成17年2月12日(土) | 10:30~12:30(1回目) | 14人 |
| " | 14:00~16:00(2回目) | 19人 |
| 平成17年2月26日(土) | 10:30~12:30(3回目) | 19人 |
| " | 14:00~16:00(4回目) | 20人 |
| 平成17年3月12日(土) | 10:30~12:30(5回目) | 14人 |
| " | 14:00~16:00(6回目) | 14人 |
| 平成17年3月26日(土) | 10:30~12:30(7回目) | 24人 |
| " | 14:00~16:00(8回目) | 18人 |

参加者数 142名

担当した研究員数 3人

事業内容

美術館ボランティアと一緒に常設展にあるいろいろな季節を描いた風景の絵を見た後、思い出を絵にしてみる。6~10歳の子供と同伴の大人を対象に、展示室でのトークと簡単な創作をセットにした大人も子供も一緒に展示を楽しむことができる体験型の申し込み制プログラムである。

4. 先生(小・中・高等学校教員)のための観賞プログラム 4回

ア. 「Fun with Collection 2004 建築探険」観賞プログラム

開催期間

平成16年7月2日(金) 18:00~

参加者数 31名

担当した研究員数 5人

事業内容

「教員を対象とした活動」として、企画展開催時に教員を対象とする観賞プログラムを行っている。日頃、多忙な教員に、展覧会を楽しんでもらうことが目的であり、展覧会の趣旨や作品について説明した後、自由に展覧会を観賞していただいた。

イ. 「聖杯 - 中世の金工美術」観賞プログラム

開催期間

平成16年7月9日(金) 18:00~

参加者数 19名

担当した研究員数 5人

事業内容 同上

ウ. 「マティス展」観賞プログラム

開催期間

平成16年9月17日(金) 18:00~

参加者数 371名

担当した研究員数 5人

事業内容 同上

エ.「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」観賞プログラム

開催期間

平成17年3月25日(金) 18:00~

参加者数 225名

担当した研究員数 5人

事業内容 同上

5. 夏期教員研修会 2回

開催期間

1回目:平成16年7月26日(月) 10:00~17:00 19人

2回目:平成16年9月13日(月) 13:30~17:00 113人

参加者数 132名

担当した研究員数 3人

事業内容

東京都図画工作研究会との連携・協力による教員対象の鑑賞授業研修会

学校の教員が美術館を利用して鑑賞授業を行うための研修会として第1回目に国立西洋美術館・常設展示室を使った実際の授業案を企画、第2回目に企画した授業を墨田区立第三寺島小学校の児童に現場で実践し、その後研究討議会を開催する一貫した研修である。また、第2回目の授業は公開授業とし、都内の小学校に研究会の案内を出して見学者を募集することとした。これにより、授業を実施する研修会参加者だけでなく、それを見学する教員も含めた形での幅広い教員を対象とした研究会となった。

6. 教員研修会 1回

開催期間

平成16年8月23日(月) 10:00~17:00

参加者数 9名

担当した研究員数 3人

事業内容

武蔵野市市立小中学校教育研究会図工・美術部会との連携により、学校で美術館を利用する際に知っておくと便利なこと、また当館の設立経緯、コレクション、建物など、広範にわたる美術館紹介を主とする研修を行った。午前は美術館の建物紹介のツアー、午後は施設や展示作品に関するワークシートを使ったオリエンテーリングを行い、その後で美術館設立の経緯とコレクションに関するレクチャーを行った。

7. 団体訪問者(学校・団体)への解説 59回

実施期間 随時

実施場所 講堂、常設展示室、その他

利用者数 59校 2,156人

担当した研究員数 3人

事業内容

要請のあった教育関係団体、あるいはグループに個別に対応し、コレクション、美術館や学芸員の仕事などの解説を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

児童生徒を対象とした活動は、平成15年度と同様に下記の項目を実施した。

- 1) Fun with Collection(所蔵作品を中心としたプログラム)
- 2) ファミリー・プログラム
- 3) 学校の教員を対象とする観賞プログラムおよび研修
- 4) 特別展ごとのジュニアパスポート
- 5) 美術館訪問への対応

1) Fun with Collectionに際して実施されるスクール・ギャラリートークは、毎年実施してきた継続の効果が表れ、参加学校・団体にリピーターが多くなり自然な形で学校との連携が整いつつある。これを踏まえ、平成17年度からはスクール・ギャラリートークを独立させたプログラムとして通年で運営する予定になっている。しかし今年度は、まだ従来のようにFun with Collectionの関連プログラムとして実施した。他の関連プログラムとしては、従来のように創作・体験プログラムとして今回の建築というテーマに沿った「着せ替えドミノ：自分だけの美術館をつくらう」(創作)と「ガイドツアー」(体験)を実施した。

2) ボランティア活動の一つとなるファミリー・プログラムは、平成16年度から新たに始まったものである。これは、インターンが開発した常設展の作品鑑賞用教材「びじゅつーる」の貸出と作品鑑賞と創作などがセットになっている「どようびじゅつ」の2種類のプログラムがある。常設展が無料観覧日となる月の第2・第4土曜日を利用して、年間を通じて交代で行われる。今年度は、ボランティアの研修が一段落した後の11月から始まった。11・12・1月は、「びじゅつーる」の貸出を行い、2・3月に「どようびじゅつ」を実施し、ともに大変好評であった。

3) 平成16年度においても例年通り、各企画展ごとに1回ずつ「先生のための観賞プログラム」を実施したが、マティス展については、300名以上の参加があり一晩に2回実施した。また、夏季の教員研修については、昨年試行として共同開催した東京都図画工作研究会(以後、都図研)と武蔵野市市立小中学校教育研究会図工・美術部会のそれぞれに対し、今年度も試行として研修を行った。都図研との研修は、教員による鑑賞授業の企画と実践という2部構成で、実践は休館日を利用して公開鑑賞授業として美術館で実施した。実践を追加した今回の研修によって、鑑賞について基本となる共通認識を確認できたのではないかと考える。

4) 平成16年度においても例年通り、各企画展ごとにジュニアパスポートを作成した。平成16年度は、「聖杯 - 中世の金工美術」展で新たなデザインを採用し、「マティス」展ではガイド的な要素は少なくして簡単な作業をとまなうワークシート的な側面を重視した。

5) 美術館訪問は、平成15年度昨年同様に可能な限り対応した。来年度から通年にわたって予約制のスクール・ギャラリートークを提供する予定であるが、定員を上回る学校団体に対しては、このような個別の対応が必要になると考える。

【見直し又は改善を要する点】

4)の「ジュニアパスポート」については、毎年削減されていく活動予算を考慮すると、現在の仕様をもっと安価なものに変更する必要があるが出てきている。

(2) - 2 講演会等の事業

中期計画

(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

実績

1. 企画展における講演会 10回(年度計画記載回数: 7回)

参加者総数 1,251人(平成12年度実績 770人)

ア. 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」 1回
(本展の講演会は、この他に平成15年度に3回実施している)

開催期間 1日間

平成16年4月24日(土) 14:00~15:30

「ローマの家族生活」

講師: 小池和子(東京大学西洋古典学研究室)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 130人

担当した研究員数 5人

事業内容

企画展覧会の展示作品を中心に、その展覧会を理解する上で欠かすことのできない、重要な歴史・文化・知識についての講演会を開催した。

アンケート結果(回答数76件)

- ・大変わかりやすかった22.5%(17件)・わかりやすかった43.4%(33件)
- ・まあまあだった19.7%(15件)・ややわかりにくかった2.6%(2件)・わかりにくかった2.6%(2件)
- ・無回答9.2%(7件)

イ. 「聖杯 - 中世の金工美術」 3回

開催期間 3日間

平成16年6月29日(火) 13:30~15:00 参加者数96人

「中世の金細工師と展示作品について」

講師: ヨハン・ミヒャエル・フリッツ(前ハイデルベルク大学教授)

「ザクセン・プロテスタント教会の美術文化財」

講師: ベッティーナ・ザイデルヘルム(ザクセン・プロテスタント教会美術文化財監督)

平成16年7月17日(土) 14:00~15:30 参加者数106人

「タシロの聖杯 - 中世美術史学の森へ」

講師: 越 宏一(東京芸術大学教授)

平成16年7月31日(土) 14:00~15:30 参加者数108人

「中世末期から初期近世にかけての典礼と聖杯」

講師: 江藤直純(ルーテル学院大学教授/日本ルーテル神学校校長)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 310人

担当した研究員数 8人

事業内容 同上

アンケート結果(回答数79件)

- ・大変わかりやすかった48.1%(38件)・わかりやすかった29.1%(23件)
- ・まあまあだった11.4%(9件)・ややわかりにくかった5.1%(4件)・わかりにくかった3.8%(3件)
- ・無回答2.5%(2件)

ウ.「マティス展」 4回

開催期間 4日間

平成16年9月11日(土)14:00~15:30 参加者数 130人

「マティスの色彩」

講師:イザベル・モノ=フォンテーヌ(ポンピドゥーセンター・国立近代美術館 副館長)

平成16年10月16日(土)14:00~15:30 参加者数 125人

「アンリ・マティス、プロセスとヴァリエーション」

講師:天野知香(お茶の水女子大学 助教授)

平成16年11月13日(土)14:00~15:30 参加者数 104人

「マティスの彫刻におけるプロセス」

講師:田中正之(国立西洋美術館 主任研究官)

平成16年12月4日(土)14:00~15:30 参加者数 132人

「マティスのデッサンをめぐって」

講師:関直子(東京都現代美術館 主任学芸員)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 491人

担当した研究員数 7人

事業内容 同上

アンケート結果(回答数81件)

- ・大変わかりやすかった 22.3%(18件)・わかりやすかった 28.4%(23件)
- ・まあまあだった 24.7%(20件)・ややわかりにくかった 11.1%(9件)・わかりにくかった 4.9%(4件)
- ・無回答 8.6%(7件)

エ.「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」 2回

(本展の講演会は、この他に平成17年度にも5回の実施を予定している)

開催期間 2日間

平成17年3月8日(火)13:00~15:30 参加者数 140人

「90歳の若い画家ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 再発見の軌跡と最近の研究動向について」

講師:ジャン・ピエール・キュザン(元ルーヴル美術館絵画部長)、田中英道(東北大学教授)

後援:美術史学会

平成17年3月19日(土)14:00~15:30 参加者数 180人

「17世紀ヨーロッパ世界とラ・トゥールの芸術」

講師:樺山紘一(国立西洋美術館長)

開催場所 企画展示館講堂

参加者数 320人

担当した研究員数 7人

事業内容 同上

2. スライドトーク等 15回(年度計画記載回数: 16回)

参加者総数 1,057人(平成12年度実績700人)

ア. 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」スライドトーク 5回
(本展のスライドトークは、この他に平成15年度に1回実施している)

開催期間 平成16年4月2日(金)(39人)、4月16日(金)(43人)、4月30日(金)(71人)、
5月7日(金)(39人)、5月21日(金)(78人) (5日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 270人

担当した研究員数 2人

事業内容 展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている金曜日に講堂でスライドトークを行った。

アンケート結果(回答数46件)

- ・大変わかりやすかった24%(11件)・わかりやすかった30.5%(14件)
- ・まあまあだった13.0%(6件)・ややわかりにくかった21.7%(10件)・わかりにくかった6.5%(3件)
- ・無回答4.3%(2件)

イ. 「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」ギャラリートーク 4回

開催期間 平成16年7月16日(金)(26人)、7月30日(金)(28人)、8月6日(金)(35人)、
8月13日(金)(50人) (4日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 139人

担当した研究員数 2人

事業内容 展覧会の見所、主な作品について、夜間開館を行っている金曜日にギャラリーで解説を行った。

アンケート結果(回答数22件)

- ・大変わかりやすかった59.2%(13件)・わかりやすかった31.8%(7件)
- ・まあまあだった4.5%(1件)・ややわかりにくかった0%(0件)・わかりにくかった0%(0件)
- ・無回答4.5%(1件)

ウ. 「マティス展」スライドトーク 6回

開催期間 平成16年9月24日(金)(88人)、10月8日(金)(93人)、
10月22日(金)(138人)、11月5日(金)(81人)、11月12日(金)(85人)、
11月26日(金)(163人) (6日間)

開催場所 企画展会場内

参加者数 648人

担当した研究員数 1人

事業内容 展覧会の見どころや主な作品について、夜間開館を行っている金曜日に講堂でスライドトークを行った。

アンケート結果(回答数90件)

- ・大変わかりやすかった20.0%(18件)・わかりやすかった50.0%(45件)
- ・まあまあだった15.6%(14件)・ややわかりにくかった5.6%(5件)・わかりにくかった2.2%(2件)
- ・無回答6.6%(6件)

3. 展覧会に関連する音楽プログラム 1回(年度計画記載回数: 1回)

ア. 「聖杯 - 中世の金工美術」レクチャー・コンサート 1回

開催期間 平成16年7月23日(金)18:00~19:30 (1日)
「グレゴリオ聖歌とドイツ・コラールの連続性」
企画・トーク：瀧井敬子(東京芸術大学演奏芸術センター助手)
演奏：トランペット=杉木峯夫(東京芸術大学教授)
合唱：東京芸術大学有志

開催場所 企画展示館展示会会場入口ロビー(地下2階)
参加者数 100人(平成12年度実績人数は、上記「2.スライドトーク等700人」に含まれる)
担当した研究員数 7人

事業内容 現在では美術と音楽という異なるジャンルとして観賞されている二つの芸術を、再度関連づけることによって美術の楽しみ方に広がりを持たせることを目的としたコンサート。
第一部 グレゴリオ聖歌とドイツ語賛美歌(「コラール」)の連続性
ドイツ・プロテスタント教会で歌われているルターのコラールには、中世のグレゴリオ聖歌を直接的なルーツとするものがある。また、それらの中には、今日、カトリック教会で聖歌として歌われているものもある。コンサートの第一部では、そうしたローマ・カトリック教会とプロテスタント教会との興味深い音楽的な連続性を探った。
第二部 トランペットも金工美術品
美しい響きを奏でる楽器は耳を楽しませてくれるだけでなく、その美しい形状で目も楽しませてくれる。楽器はまさに美術品でもある。金管楽器トランペットは、金工美術品ということができるであろう。中世以来、金工たちの努力で改良が重ねられ、トランペットはやがてバツハ音楽において、華麗なオブリガートを演奏するソロ楽器となった。それが、世にいうバツハ・トランペットである。コンサートの第二部では、バツハ音楽で美しいオブリガートを演奏できるまでになったトランペットの歴史にも光をあてた。

4. イヤホンガイドの実施(共催展において3回実施)

利用者総数 67,655人

ア.「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

実施期間 平成16年3月2日(火)~5月30日(日)(79日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 12,673人(大人12,072人、学生601人)

担当した研究員数 1人

事業内容

観覧者が展示会の趣旨、作家、作品についてさらに理解を深めることを支援し、楽しむことができるようイヤホンガイド解説を実施

アンケート結果(回答数77件)

- ・大変わかりやすかった51.9%(40件)・わかりやすかった31.2%(24件)
- ・まあまあだった15.6%(12件)・ややわかりにくかった0%(0件)・わかりにくかった1.3%(1件)

イ.「マティス展」

実施期間 平成16年9月10日(金)~12月12日(日)(83日間)

実施場所 企画展示館展示会場

利用者数 47,189人(大人45,192人、学生1,997人)

担当した研究員数 1人

事業内容 同上

アンケート結果(回答数69件)

- ・大変わかりやすかった65.3%(45件)・わかりやすかった24.6%(17件)
- ・まあまあだった10.1%(7件)・ややわかりにくかった0%(0件)・わかりにくかった0%(0件)

ウ.「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

実施期間 平成17年3月8日(火)~5月29日(日)(73日間)

実施場所 企画展示館展示会場
利用者数 7,793人(大人7,451人、学生342人)
担当した研究員数 1人
事業内容 同上

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も例年同様に、企画展ごとに複数の講演会、スライドトークあるいはギャラリートークを実施した。各企画展に関連して行われる講演会のうち1回は、展覧会に関係している外国の研究者を講師として招聘した。「聖杯 - 中世の金工美術」展で、東京芸術大学音楽学部演奏芸術センターとの協力によるコンサートを開催し、好評を博した。

【見直し又は改善を要する点】

現在、講演会の内容は、一般(専門家ではない人々)を対象として実施されているが、当館の利用者の中には、美術の専門家ではなくともかなりの知識を持つ人々も多く、切り口やテーマのヴァリエーションだけでなく、対象(初心者から専門家まで)のヴァリエーションも考慮した企画を検討する必要があるとも考える。

(3) - 1 研修の取組

中期計画

- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

実績

1. 他の機関が実施する研修への協力を実施

ア. 中華民国博物館学会アジア美術館調査へ協力

研修期間 平成16年4月16日（金）（1日間）

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室

参加者数 19人

担当した研究員数 2人

事業内容 海外美術館の管理組織、財務運営、コレクション方針、展示、教育、集客戦略等の調査を目的とする海外研修会へ協力し、説明・解説等の支援を行うとともに、情報交換・意見交換を図り、人的ネットワークの形成に努めた。

イ. 国立科学博物館上野の山ミュージアムクラブ見学会へ協力

研修期間 平成16年7月22日（木）、7月27日（火）、8月3日（火）、8月17日（火）（4日間）

開催場所 国立西洋美術館

参加者数 16人

担当した研究員数 2人

事業内容 国立科学博物館が上野の文化施設等と連携して行う教育普及事業へ協力し、美術館見学会、美術館体験活動への支援を行った。

ウ. 第1回東京都博物館協議会見学研修会へ協力

研修期間 平成16年7月26日（月）（1日間）

開催場所 国立西洋美術館 企画展示室、常設展示室

参加者数 82人

担当した研究員数 1人

事業内容 東京都博物館協議会が実施する見学研修会へ協力し、講演「聖杯 - 中世の金工美術」（講師：主任研究官 田邊 幹之助）及び美術館施設設備の見学・説明等の支援を行った。

エ. 平成16年度東京教師養成塾に係る体験活動の受入

研修期間 平成16年8月7日（土）、8日（日）、21日（土）、22日（日）（4日間）

開催場所 国立西洋美術館

参加者数 1人

担当した研究員数 1人

事業内容 東京都教育庁指導部が、都内の小学校教諭一種免許状課程認定大学に在籍する4年生に対して実施する教師養成塾に協力し、塾生を当館の教育普及室において受入れ、教育普及プログラム補助等の体験活動を行った。

オ．平成16年度社会教育主事講習〔A〕へ協力（主催：国立教育政策研究所）

研修期間 平成16年8月19日（木）（1日間）

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室、企画展示館講堂

参加者数 14人

担当した研究員数 1人

事業内容 国立教育政策研究所が主催する社会教育主事講習へ協力し、講義及び美術館施設設備の見学・説明等の支援を行った。

カ．平成16年度文化財行政講座へ協力

研修期間 平成16年11月11日（木）（1日間）

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 会議室（講義）、国立西洋美術館内（施設見学）

参加者数 18人

担当した研究員数 1人

事業内容 文化庁が都道府県及び市（区）町村教育委員会等の文化財行政担当者職員の資質の向上を図るため主催する講座に協力し、特別講義「国立西洋美術館の事業・運営の現状」（講師：国立西洋美術館学芸課長 幸福 輝）を実施及び美術館施設設備の見学・説明等の支援を行った。

キ．行政・司法各部門支部図書館職員特別研修へ協力

研修期間 平成17年1月21日（金）（1日間）

開催場所 企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター

参加者数 24人

担当した研究員数 1人

事業内容 国立国会図書館が行政・司法各部門支部図書館職員に対して開催する研修に協力し、当館研究資料センター及び美術館施設設備の見学・説明等の支援を行った。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も他の機関が実施する研修等事業への協力を積極的に取り組んでおり、講演、施設見学・説明等の支援を行い、着実に成果を上げた。また、当館では他に教育普及プログラムとして、先生（小・中・高等学校教員）のための観賞プログラム（毎年）、東京都図画工作研究会との連携による教員対象の鑑賞授業研修会（平成16年度夏期）及び、武蔵野市市立小中学校教育研究会図工・美術部会との連携による教員研修会を企画・開催し、プログラムの参加者からは有意義であったとの好評を得ている。（詳細は「教育普及」児童生徒を対象とした事業欄へ）

【見直し又は改善を要する点】

今後も引き続き研修会への協力・支援を行い、情報交換、人的ネットワークの形成を推進し、美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムの検討と実施に努めたい。

(3) - 2 大学等との連携

実績

1. 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力 2名
研修期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日
開催場所 国立西洋美術館
参加者数2人(平成12年度実績無し) 平成14年度からの新規事業
担当した研究員数 2人
事業内容 人文社会系研究科文化資源学研究専攻の一層の充実と当該研究課の学生の資質の向上を図り、相互の教育・研究の交流を促進し、もって学術の発展に寄与することを目的として実施した。受け入れた学生については、当館のインターンシップ制度の下に置いて指導を行った。
2. インターンシップ制度の実施
研修期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日(原則年度中に3ヶ月以上、6ヶ月以内の期間)
開催場所 国立西洋美術館
参加者数11人(平成12年度実績無し) 平成14年度からの新規事業
担当した研究員数 2人
事業内容 西洋美術に関心を持つ人材の専門的知識と技術の向上を図り、当館の活動をより広く理解してもらうこと、並びに教育機能の充実を図ることを目的として美術館における実務研修を実施した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

3回目となる平成16年度、教育普及部門では前期に8名、後期に6名(うち期間の更新3名)のインターンを受け入れた。そのうち2名は単位認定を伴う東京大学文化資源学研究室との連携による大学院生であった。活動内容は、前期をギャラリートークの実践および評価調査、さらに夏のFun with Collectionの補助とし、後期を昨年度開発された「びじゅつーる」の改善調査とした。前期のギャラリートークの評価調査は、Fun with Collectionに関連して実施されたスクール・ギャラリートークの参加者を対象に行い、ギャラリートークの効果を評価した。調査期間が短く収集データの数が少なかったため、分析および評価が難しい局面もあったが、今後のギャラリートークを考えるうえで有益な調査結果をえることができた。一方、後期の「びじゅつーる」改善調査は、昨年度の経験が活かされた結果、調査方法及び手順が見直され充実した改善が行われた。

【見直し又は改善を要する点】

平成16年度においても、前期についてはいささか多めの活動内容となってしまった。また、インターンシップの内容(実務の種類、研修の時間)受け入れ人数は、この制度の目的と合わせ、未だ検討段階にあるが、来年度はこれまでの反省を活かした内容で実施する予定である。

(3) - 3 ボランティアの活用状況

中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

実績

| | |
|------------|---|
| 1. 登録人数 | 19人(平成16年11月18日(木)研修終了) |
| 2. 活動内容 | <p>平成16年4月からボランティアの募集を開始、応募者の履歴・小論文・面接により19名を選考し、国立西洋美術館ボランティア候補者として登録を行った。その後は、候補者に対し6月3日(木)～11月4日(木)の間に計12回のボランティア研修を行い、研修の修了者を正式に国立西洋美術館ボランティアとして決定し活動を開始した。</p> <p>平成16年11月13日(土)より、常設展の作品鑑賞を助けるツール(観賞用教材「びじゅつーる」)の貸出及び運営の担当を開始した。</p> <p>平成17年2月12日(土)より、来館者が美術館ボランティアと一緒に常設展にある色々な季節を描いた風景の絵を見た後、思い出を絵にしてみる体験型の申し込み制教育普及プログラム「どうぶじゅつ おもいで風景」を開始した。</p> <p>平成17年度から予定をしている小・中・高校生の団体を対象にした常設展示でのスクール・ギャラリートークの開始に向けて、その準備を行った。</p> |
| 3. 今後の取り組み | <p>平成17年度から美術館ボランティア・スタッフによる小・中・高校生の団体を対象にした常設展示でのスクール・ギャラリートークの提供を始める。</p> <p>「国立西洋美術館スクール・ギャラリートーク」</p> <p>開催期間：5、6、7、8、11、12、1、2月の火・木・金曜日</p> <p>事業内容：子どもたちの思考を刺激し、観察力を育て、自ら考えて言葉を紡ぐことを促す、対話式のトーク</p> |

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度は4月にボランティア募集を行い、5月の選考を経て6月から11月にかけての6ヶ月にわたり新規のボランティア候補生の研修を実施した。前半は、コレクションに関する講義を中心に行い、後半はボランティアが担当することとなるファミリー・プログラムやスクール・ギャラリートークに関連して、教育学や博物館・美術館における学習理論に関する講義、他館のガイド・トーク見学、模擬トークなどを行った。候補生は研修の出席率もよく、前向きに取り組んだ結果、研修を終え全員が無事に正式なボランティアとして認定された。11月で初期研修はひとまず終了したが、引き続き来年度からスタートするスクール・ギャラリートークへ向けての模擬トークを追加した。

また、11・12・1月は、インターンが開発・作成した家族で利用する常設展の作品観賞用教材「びじゅつーる」の貸出・運営を行った。2・3月には「どうぶじゅつ」を実施した。これは、作品の観賞と創作をセットにした2時間ほどの短いプログラムである。今年度の新規プログラムであったが、応募を開始してまもなく定員オーバーとなる盛況ぶりだった。今回の「おもいで風景」は、コレクションの中から風景画を2～3点選んで観賞した後、参加者それぞれの思い出の風景を、点描法を使って描くものである。参加した家族からは、子どもと大人が一緒に楽しめた、ボランティア・スタッフの対応も良かったなど、大変好評であった。ボランティアにとっても、このプログラムで初めて子どもを前にしてのトークを行い、これまでの模擬トークではわからなかった、子どもの達の反応を生で体験することができ、来年度のスクール・ギャラリートークへ向けて有意義な経験となった。

【見直し又は改善を要する点】

ボランティアによるファミリー・プログラムは、当初月の第2土曜に「びじゅつーる」の貸出、第4土曜日に「どようびじゅつ」を実施する予定で計画を立てていたが、「どようびじゅつ」のプログラムが変わることに必要となってくる追加の研修、及びスクール・ギャラリートークとの関連を考慮すると、各プログラムの組み方を変更しなければならなかった。また、すべての活動が始まった後も、ボランティアの要望を踏まえ、レベル・アップのために引き続き様々な研修を追加していく必要がある。

(4) 渉外活動

中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

実績

1. 展覧会を開催するにあたり、新聞社、企業、メセナ財団より協力及び支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。

日本航空株式会社より「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」を開催するにあたり、作品輸送及びクーリエ・展覧会関係者国際線航空券の割引協力を得た。

(財)東芝国際交流財団より「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。これにより作品リスト等の広報印刷物を作成し、入場者へ無料配布した。

(財)アサヒビール芸術文化財団より、「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。

(財)西洋美術振興財団より、講演会等教育普及事業に関する助成を得た。

「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」広報の一環として、株式会社読売旅行が主催する「聖杯 - 中世の金工美術」にちなんだ旅行ツアーへ企画協力を実施した。

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール 光と闇の世界」展において、コーデックスイメージズインターナショナル、クインランド、京都市立芸術大学と連携し、マルチメディア機器・機材及びDVD・映像ソフト等の提供を受け、マルチメディアによる情報コーナーの設置を実施した。
2. 企業等との連携を進め、美術館・展覧会情報等の掲載及び割引入場券発券等の幅広い広報活動を図った。

上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」（発行：上野のれん会）への展覧会情報掲載など、上野のれん会加盟店を通じた幅広い広報活動を実施した。

上野 松坂屋が発行する「Weekly Matsuzakaya」に展覧会情報を掲載した。

日本通運株式会社「日通ホームページ」、「日通だより（社内報）」及び「中央公論新社PRページ」に「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」展覧会情報を掲載。また、日通社内向け前売券販売及びポスター・チラシ・割引券等の日通営業店店頭掲示を実施した。

「Weeklyぴあ」（発行：ぴあ（株））に展覧会情報を掲載した。

テクノシステム（株）が全国の幼・小・中・高校、及び文化施設へ向けて配信するメールマガジン「校外学習通信」へ美術館及び展覧会情報等の掲載した。

JR東日本「平成16年度上野周辺散策マップ」へ美術館情報を掲載した。

「マティス展」タイアップ企業特別内覧会を実施した。（平成16年9月15日（水）18:30～20:30 招待：300名 マガジンハウス「BOAO」創刊記念 展覧会鑑賞会「マティスの夕べ」）

東京の美術館・博物館等44館で実施する共通入館券（東京・ミュージアムぐるっとパス）実行委員会に参加し、常設展共通入場券を発行した。

東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展の割引入場引換券を掲載した。

週刊朝日百科「美術館を楽しむ」創刊号へ美術館利用案内情報及び常設展割引券（一般420円 340円）を掲載した。

東京地下鉄株式会社及び財団法人西洋美術振興財団（ミュージアムショップ）と連携し、東京地下鉄株式会社が発売する「東京地下鉄1日乗車券」を利用された方への特典として、国立西洋美術館常設展料金の割引（一

般420円 340円)、企画展料金の割引及びミュージアムショップでの商品割引販売(10%割引)を実施した。また本事業に関連し、東京メトロ各駅と美術館においてチラシの配布とポスターの掲出を行うほか、上野地区でのスタンプラリーイベントを実施し、相互協力によるPR活動を推進した。

小田急電鉄株式会社及び財団法人西洋美術振興財団(ミュージアムショップ)と連携し、小田急電鉄株式会社が発売する「小田急東京メトロパス」を利用された方への特典として、国立西洋美術館常設展料金の割引(一般420円 340円)、企画展料金の割引及びミュージアムショップでの商品割引販売(10%割引)を実施した。また本事業に関連し、小田急線各駅、東京メトロ主要駅、小田急車両、東京メトロ車両及び美術館においてチラシの配布とポスターの掲出を行い、相互協力によるPR活動を推進した。

3. 地域との連携を進め、他の機関・団体等と共同・連携し、幅広い広報活動を行った。

東京都「上野地区観光まちづくり推進会議」へ参加し、観光の視点に立った特色ある魅力的なまちづくりの実現に向けた地域の調査・検討会議で共同・連携を行った。平成16年度は上野地区が行った夜間の上野公園内のイルミネーション及びライトアップ事業と、国立西洋美術館が行ったイルミネーション「ミュージアム・クリスマス」を連携して実施することで両イベントの相乗効果を図り、館及び地域全体の集客力の強化に取り組んだ。

台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「art-Link上野-谷中2004」へ参加し、地域との連携を推進した。

台東区教育委員会を通じて、台東区内の小中学校へ展覧会情報と観覧料金の無料化PRを実施した。

近隣の高等学校14校を訪問し、展覧会情報(「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展」「聖杯-中世の金工美術」)及び高校生観覧料金の低廉化についての広報活動を行った。また、学校側のニーズを調査するべく、相互に意見交換を行った。

平成16年5月18日 イコムが世界規模で行う「国際博物館の日」と連動して、国立西洋美術館、東京国立博物館、国立科学博物館、東京藝術大学大学美術館、東京都美術館、東京都恩賜上野動物園、上野の森美術館、台東区、上野のれん会、(株)NTTドコモが協力し、上野地区での記念事業を行った。

財団法人日本博物館協会が文部科学省の委託を受けて実施した高齢者の生きがい・癒しの場としての博物館機能アンケート調査に協力した。

上野中通商店街振興組合が実施するウォークラリー事業「第12回上野探検ウォークラリー」に協力した。

NHK放送が実施する防災キャンペーンによる義援金の募金活動に協力した。

フランス政府観光局と阪急交通社が「マティス展」において行った、マティスにちなんだ観光プロモーションに協力した。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も、引き続き企業や地域の他機関・団体との連携による活動に力を入れ、幅広く創意工夫したことにより、多方面に渡る連携先との相互支援関係が得られたものとする。また、企業等との連携では、東京地下鉄株式会社、小田急電鉄株式会社と連携し、入場料金の割引や相互協力によるPR活動を実施したほか、週刊朝日百科「美術館を楽しむ」創刊号への常設展割引券掲載、「マティス展」タイアップ企業特別内覧会の実施を行うなど、新たな進展があった。地域との連携では、近隣の高等学校を訪問し、展覧会の情報や高校生観覧料金低廉化の広報活動を実施した。その際には相互に意見交換を行うなどして、地域の教育関係機関との連携について新たな試みを模索した。今後も、今回実施した学校訪問等の手法をも含めた有効な渉外活動の検討を行い、美術館事業の充実につなげていきたい。

【見直し又は改善を要する点】

今後もさらに積極的な外部に向かった渉外活動(支援、連携、協力)を推し進め、企業や、地域の他機関・団体

と一体となった連携活動を推進し、美術館の運営並びに観光や地域の振興にも寄与することが出来るような方策の検討に努めたい。

5 . その他の入館者サービス

中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的の実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

実 績

1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1

| | |
|-------------------------------------|---|
| 障害者トイレ | 5 箇所(本館 1 階 1 箇所、企画展示館地下 1 階 1 箇所、企画展示館地下 2 階 3 箇所) |
| 障害者エレベータ | 4 基(新館 1 基、企画展示館 3 基) |
| 段差解消(スロープ) | 2 箇所(正門、本館 19 世紀ホール) |
| 風除扉の自動扉化 | 7 箇所(本館 2 箇所、新館 4 箇所、企画展示館 1 箇所) |
| 貸出用車椅子 | 10 台(1 階インフォメーション) |
| 貸出用杖 | 10 本(1 階インフォメーション) |
| 盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能 | |
| 国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備 | |
| 風除扉の自動扉化のうち、企画展示館の 1 箇所は平成 16 年度に新設 | |

2 . 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4

共催展において音声ガイドの実施

「ヴァチカン美術館所蔵古代彫刻 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

「マティス展」

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール 光と闇の世界」

総貸出件数 67,655 件

展示解説ビデオを上映

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」(企画展示館展示ロビー)

「マティス展」(企画展示館展示ロビー、企画展示館展示室内)

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(企画展示館展示ロビー)

「前庭彫刻 免震化と修復」(新館 1 階休憩コーナー)

マルチメディアによる情報コーナーの設置

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」(PC 端末設置、DVD によるデジタル検索、映像の上映)

ジュニアパスポート、作品リスト及び、ワークシートを作成し、無料配布

ア. ジュニアパスポート(日本語版)及び作品リスト(日本語版、英語版)作成

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

「マティス展」

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

イ. ジュニアパスポート(日本語版)作成

「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」

ウ. 作品リスト(日本語版、作品名等英語併記)作成

「オランダ・マニエリスム版画展」作品リスト 日本語版(作品名等の英語表記あり)

「マックス・クリンガー版画展」作品リスト 日本語版（作品名等の英語表記あり）
エ．ワークシート等の無料配布
Fun With Collection '04「ぐるぐるめぐるル・コルビュジエの美術館」建築探検マップ
レクチャー・コンサートプログラム「グレゴリオ聖歌とドイツ・コラルの連続性」
国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語版、英語版、韓国語版、中国語版）、小中学生向け常設展解説『びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド』、展覧会案内チラシ、美術館情報等の広報印刷物を無料配布
作品解説パネル、会場内サインの整備を実施、平成16年度からは国立西洋美術館本館参考順路図を作成し、会場内で無料配布

3．夜間開館等の実施状況 (1)-3

夜間開館実施状況

ア．開催日数 50日

イ．入館者数 48,421人（総入場者数999,917人、夜間開館入場率4.84%）

ウ．実施日 毎週金曜日を20時まで開館

小中学生の入場料の低廉化

ア．昨年度に引き続き、常設展及び自主企画展は年間を通じて観覧料金無料とした。

「常設展」

（自主企画展）「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」

イ．共催展は、共催者の協力を得て観覧料金を無料とした。

「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」

「マティス展」

「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール - 光と闇の世界」

以外の入場者料金の取り組み

ア．平成15年度から学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図っている。

・学生130円（団体70円） 大学生130円（団体70円）、高校生70円（団体40円）

イ．自主企画展「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」においては入場料に割引料金を設定して割引券及び前売券を発行し、料金の低廉化を図った。

・割引券 一般850円 800円、大学生450円 400円、高校生250円 200円

・前売券 一般850円 700円、大学生450円 350円、高校生250円 150円

前売券発売場所：国立西洋美術館売札、東日本旅客鉄道、チケット・ぴあ、学校法人文化学園、日本通運株式会社（社内向け販売）

ウ．東京の美術館・博物館等44館で実施する共通入館券（東京・ミュージアムぐるっとパス）実行委員会に参加し、常設展共通入場券及び企画展入場割引券を発行した。

・ぐるっとパス2004 2,000円（参加施設44館に、最初の利用日から2ヶ月の間に各館1展示1回の入場が可能）

エ．東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展の割引入場引換券を掲載した。

・ウェルカムカード 一般420円 340円

オ．常設展については毎月第2・第4土曜日及び、文化の日を無料観覧日としている。

（開催日数26日、入場者数14,916人）

その他の入館者サービス

利用者の「満足」を生み出すため、サービスの質の向上に努めている。

ア．館内の売札所において、自主企画展・共催展前売券を販売

イ．自主企画展「聖杯 - 中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」において、前売券を東日本旅客鉄道、チケット・ぴあ、学校法人文化学園、日本通運株式会社（社内向け販売）で販売

ウ．展覧会の混雑時は、臨時の券売窓口の増設や、開館時間の延長、または開館時間を早めるなどとして柔軟に対応

エ．無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めている。

オ．春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、午後5時の閉館時間を、5時30

分まで延長

カ．5月の連休中の振替休館日及び、8月のお盆休の期間中の休館日を臨時に開館

キ．マティス展開催期間中の休館日である9月21日（火）及び11月22日（月）を臨時に開館

ク．年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館

ケ．ロダンの彫刻のある前庭及び、本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、デジタルギャラリー、資料コーナーがあるスペースを入館料無料のフリーゾーンとして開放している。

4．アンケート調査(1)-3

調査期間

(抽出アンケート調査)

平成16年4月29日～5月2日(4日間)(ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展)

平成16年8月5日～8月8日(4日間)(聖杯-中世の金工美術)

平成16年9月23日～9月26日(4日間)(マティス展)

平成17年2月24日～2月27日(4日間)(常設展)

(任意アンケート調査)

平成16年3月2日～5月30日(53日間)(ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展)

平成16年6月29日～8月15日(43日間)(聖杯-中世の金工美術)

平成16年9月10日～12月12日(83日間)(マティス展)

調査方法 各展覧会のアンケートを実施する際に、美術館利用後の満足度調査も併せて行っている。また、お客様の意見を幅広く受入れるべく、展覧会開催期間中に会場の出口付近へアンケート用紙(日本語・英語)及びアンケート台を設置し、任意によるアンケート調査を実施している。

アンケート回収数 4,685件

アンケート結果

- ・大変良かった20.30%(951件)・良かった35.13%(1,646件)・まあまあだった8.69%(407件)
- ・あまり良くなかった0.15%(7件)・良くなかった1.22%(57件)・無回答34.51%(1,617件)

5．一般入館者等の要望の反映(2)

企画展示室の入り口を自動扉化し、バリアフリーの推進を図った。

新館のトイレへウォシュレットを設置した。

入館者へのサービスの質を一層高めることを目的に、入館者と直に接する受付・案内の職員、看手及び美術館の職員に対して接客についての研修及び救命講習を実施した。

・接客研修(講師:(株)インソース 中村はるみ氏) 16年2月28日(月)

・防災訓練(場所:東京消防庁本所防災館) 17年1月24日(月)、2月15日(火)2回に分けて実施

・上級救命講習 16年10月6日(水)

開館時間の延長を実施し、春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、午後5時の閉館時間を、5時30分まで延長することとした。

平成16年度から8月のお盆休みの休館日を開館することとした。

マティス展開催期間中の連休の休館日を臨時に開館した。(2回実施)

「聖杯展開催記念 ガーデンコンサート」を開催した。

日時:平成16年7月17日(土)

場所:国立西洋美術館前庭 「地獄の門」前

出演:上智大学聖歌隊、ルーテル学院大学聖歌隊、清泉女子大学聖歌隊

内容:自主企画展「聖杯-中世の金工美術 ドイツ東部のプロテスタント教会所蔵作品による」の盛り上げを図るべく、各大学へ協力を呼びかけ「聖杯展開催記念 ガーデンコンサート」を開催した。フリーゾーンとなっている前庭のロダンの「地獄の門」の前に設けたステージで、3大学聖歌隊のメンバーが賛美歌など10曲を高らかに歌い上げた。本コンサートは展覧会の広報企画としてだけではなく、大学との文化活動における連携の面においても、また、国立西洋美術館を訪れていた観覧者の方々にとっても大好評となるイベントとなった。

平成16年度文化庁舞台芸術国際フェスティバル「上野の森ミュージアムコンサート」を開催した。

日時：平成16年9月18日(土)、9月19日(日)

場所：国立西洋美術館前庭 「地獄の門」前

出演：磯江里子(ヴァイオリン)、竹内直子(クロマックハーモニカ)

内容：利用者のニーズに応え、美術館を文化活動の場として定着させ、音楽と美術という双方の芸術交流を図るため、文化庁と連携し「上野の森ミュージアムコンサート」を開催した。

クリスマスイベント「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を開催した。

日時：平成16年12月1日(木)～26日(日)

場所：国立西洋美術館前庭

内容：12月1日～26日の期間にお客様への感謝を込めて、開館以来初の試みとなるクリスマスイベントを開催した。ロダン等の彫刻群が並ぶ前庭を白で統一したイルミネーションで飾る「ガーデン・イルミネーション」や、次回開催展覧会に関連した「オリジナルポストカード」のプレゼント、翌年の1月～2月に使用可能な「常設展無料観覧券」のプレゼントを行い、国立西洋美術館を訪れた芸術ファンへのサービスを実施した。

館内の売札所において自主企画展及び当館共催展の前売券販売を実施した。

6. レストラン・ミュージアムショップの充実(3)

ア. レストラン

平成16年4月1日からの消費税総額表示に併せ、消費税相当額の端数を切り捨てることとして、全面的な料金の値下げを行った。

企画展覧会に関連した料理をメニューに取り入れている。(マティス展では、プロヴァンス地方のワイン)ケーキの品揃えの充実と質的向上に力を入れている。

お客様の要望に応え、季節に応じたメニューの取り扱いを実施している。(季節ごとのおすすめパスタ、ランチメニューの魚など)

セットメニューを増やすなどして、利用しやすい料金設定に努めている。

お客様の要望に合わせたラストオーダー時間の延長をするなどして、サービスの向上に努めている。

レストランの完全禁煙化を実施している。

イ. ミュージアムショップ

お客様の要望に応え、国立西洋美術館所蔵作品オリジナルグッズの新商品を開発し販売を行った。平成16年度の新商品は、睡蓮・ばらをモチーフにした「ハンドタオル」、睡蓮、ばらをイメージした「オーデコロン」、考える人「定規」「ボールペン」、ロゴ入り「革製、ブックカバー/名刺入れ」「キャンパスバッグ」である。また、所蔵作品のオリジナル複製画(モネ「睡蓮」、ゴッホ「ばら」、セザンヌ「ジャ・ド・ブッフアン」の眺め)、ルノワール「帽子の女」)の受注販売も引き続き行っている。

お客様から要望の多かった作品の絵はがきを作成し、種類の入れ替えを行った。

書籍の充実を図り、子どもから大人や専門家まで対応が可能な幅広い品揃えになるよう努めている。

遠方のお客様にはカタログ等の通信販売にも対応するなどして、サービスの向上に努めている。

お客様が比較・選択しやすいように、売場のショーケースの内容を季節ごとに変えるなど、ディスプレイ方法の見直しに努めている。

自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度も入館者アンケートの分析によるお客様からの要望への対応を重視し、館内サイン・看板等の整備計画及びバリアフリーの推進計画を検討し、「施設の整備」、「鑑賞環境の充実」、「開館時間延長・連休期間の臨時開館による観覧者の利便性向上」、「美術館への親近感の醸成に結びつく各種イベント開催」の4つの事業の充実に取り組んだ。

施設の整備では、企画展示室の入り口を自動化する工事を行った。これにより、展示室内の空調安定化とともに、展示室入り口の風除扉の開閉が容易になり、バリアフリーの推進が図られた。また、新館のトイレへウォシュレットを設置したことにより、国立西洋美術館では全館のトイレでウォシュレットの使用が可能となり、快適な観覧環境の

整備と入館者サービスの向上が図られた。

鑑賞環境の充実では、来館者の方が有意義な時間を過ごせることを第一の目的とし、受付・案内の職員、看手及び美術館の職員、レストラン、ミュージアムショップ、すべてのスタッフが連携を保ち、来館者の方へ好感を与えられるように接客研修を実施するとともに、救命講習等の訓練を行い、サービスの向上と充実を図った。また、平成16年度より「国立西洋美術館本館参考順路図」を新たに作成し、会場内での無料配布を行った開始した。

開館時間延長・連休期間の臨時開館による観覧者の利便性向上においては、平成16年度より入館者から要望の多い開館時間の延長を実施し、春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの間の開館時間について、30分延長することとしたほか、8月のお盆休みの休館日を開館することとした。また、マティス展では、会期中の連休の休館日を臨時に開館し、開館時間を量的に増やす事によって、観覧者が利用しやすい環境の整備に努めた。

美術館への親近感の醸成に結びつく、各種イベントの開催では、「聖杯展開催記念 ガーデンコンサート」、文化庁舞台芸術国際フェスティバル「上野の森ミュージアムコンサート」、「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」を前庭において行った。特に「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」は開館以来初の試みであったが、大勢のお客様に無料開放をしている前庭を訪れていただくことができ好評であった。

【見直し又は改善を要する点】

インフォメーションでの対応や国立西洋美術館ブリーフガイド及びホームページについては、英語を中心に外国語への対応を図っており、平成16年度は研修会「外国人旅行者をやさしく迎える施設づくり」(主催：東京都、協力：東京国立博物館、日本博物館協会)へ参加するなどして、外国人へのサービス充実に向けた有効な手法の検討を進めているところであるが、今後は広報印刷物や解説パネルについても外国語への対応を検討し、引き続き外国人にも親しまれるための改善に努力していく必要がある。